

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
情報科学	1	30	1	1	小野澤 光洋
到達目標					
コンピューターの基礎的知識、コンピューターによる各種情報の検索・収集方法、情報処理について理解し、基本操作ができる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. パソコンの基本操作 1)ファイル管理 2)インターネットの利用	講義 演習	45分		
2	3)編集範囲の指定 4)コピーと貼り付け	講義 演習			
3	2. ワードプロ (Word) 1)文字飾り 2)表の作成と加工	講義 演習			
4	3)検索と置換 4)図形・画像の活用、数式エディタ	講義 演習			
5	5)Word演習	講義 演習			
6	3. 表計算表 (Excel) 1)セルとシート、計算式、セルの書式	講義 演習			
7	2)日付の計算、ユーザ定義書式 3)罫線	講義 演習			
8	4)相対参照と絶対参照 5)関数	講義 演習			
9	6)範囲名、ウインドウの分割と枠固定 7)シート間の計算	講義 演習			
10	8)グラフ 9)印刷の設定	講義 演習			
11	4. データベース (Excel) 1)フィルター	講義 演習			
12	2)テーブル 3)ピボットテーブル	講義 演習			
13	4)Excel 演習	講義 演習			
14	5. Power Point 1)スライド作成、アウトライン	講義 演習			
15	2)アニメーション 3)スライド操作	講義 演習			
16	終講試験				
評価方法		実技試験・筆記試験			
テキスト		医療系のための情報リテラシー—Windows 10、office2016対応— 共立出版			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
論理学	1	30	1	1	下川 篤
到達目標					
論理的な思考力・読解力・表現力に必要な基礎的知識を理解し、小論文を書くことができる					
時	授業内容		方法	備考	
1	これまでの学びの確認		講義	確認テスト	
2	1. 論文の構成と組み立て・内容の基本 1)日本語の表記		講義		
3	2)語句と文体		講義		
4	3)敬語表現、文章の書き方の基本		講義		
5	2. 文章の書き方 1)小論文作成1		講義 演習		
6	2)小論文について:小論文作成2		講義 演習		
7	3)小論文について:小論文作成3		講義 演習		
8	4)小論文3について:日本文学に見る「死」		講義 演習		
9	3. 論文の読解力・論理的な文章表現力 1)論理トレーニングとは 2)接続表現		講義		
10	2)接続表現		講義		
11	3)議論の骨格		講義		
12	4)論証とは 5)演繹の正しさ・推測の適切さ		講義		
13	6)論証を批判的にとらえる		講義		
14	7)小論文作成4		講義 演習		
15	まとめ		講義	45分	
16	終講試験			45分	
評価方法		筆記試験			
テキスト		論理トレーニング101題 産業図書			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名	
哲 学	1	30	1	1	杉岡 正敏 院内講師(医師)	
到達目標						
自己の価値観を知り、人間観、死生観を養うため、生命、人間の尊厳、人間存在、自由、愛など形而上学的問題について考えることができる						
時	授業内容		方法	備考		
1	哲学とは 幸福論としての古代ギリシャ哲学 (ソクラテス～アリストテレス)		講義	担当:杉岡 正敏		
2			講義			
3	近世哲学における無限性 (デカルト・パスカル)		講義			
4			講義			
5	近現代の哲学における無限性(カント・現象学)と看護		講義			
6			講義			
7	命の授業の意義・メリットとリスクについて		グループ ワーク			
8			発表			
9	代理出産の歴史と功罪		講義	担当:院内講師		
10	生命倫理の概念		講義			
11	QOL		講義			
12	インフォームドコンセント		講義			
13	リビング・ウィル		講義			
14	生命倫理における諸問題		講義			
15	まとめ		講義			45分
16	終講試験					45分
評価方法		筆記試験				
テキスト		哲学 ―看護と人間に向かう哲学― ニューヴェルヒロカワ 健康支援と社会保障制度 総合医療論 医学書院				

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
物理学	1	30	1	1	西山 等
到達目標					
自然界の働いている力を物理学的に理解するとともに、医療・看護に用いられる物理学の原理を理解することができる。					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 質点の力学 1)力の加減 2)作用・反作用の法則	講義	・物や人を動かす、運ぶ、回す、滑らすという場面では必ず力学が関係します。身体に関わる力を意識しながら力学の原理を学習します。		
2	3)力学的エネルギーの保存則	講義			
3	4)摩擦力	講義			
4	2. 剛体の力学 1)トルク 2)剛体のつり合い 3)看護でのトルク	講義			
5	4)重心と安定性	講義			
6	3. 流体の力学 1)アルキメデスの原理 2)圧力 3)大気圧	講義	・検査・治療・処置の多くの場面では流体の物理が関係することから、静止した流体や流れている流体の力学の基礎を学習します。		
7	4)ベルヌーイの定理 5)血圧	講義			
8	6)酸素ポンプ 7)サイフォン	講義			
9	5. 看護に必要な電気学 1)電気の基礎 2)感電	講義	・看護においても電気の知識が必要であり、その基礎を学習します。		
10	6. 熱現象 1)熱膨張 2)比熱と潜熱 3)熱移動	講義	・体温の測定や制御を意識しながら熱について学習します。		
11	7. 音に関する現象 1)音波の基礎 2)ドップラー効果 3)超音波	講義	・音波の医療的応用に関し、その基礎を学習します。		
12	8. 光に関する現象 1)光の性質 2)全反射とファイバースコープ 3)レンズと眼鏡 4)紫外線 5)赤外線	講義	・看護、医療における光との関わりや光学器械の原理を学習します。		
13	9. 放射線の防護と応用 1)X線 2)RI 3)放射線元素の崩壊と半減期 4)放射線の単位 5)放射線の防護	講義	・放射線は診断、治療に欠かすことのできない存在であることから、その基礎を学習します。		
14	10. 医療・看護に用いられる物理学の原理まとめ	講義			
15	まとめ	講義	45分		
16	終講試験		45分		
評価方法		筆記試験			
テキスト		新体系 看護学全書 基礎科目 物理学 メヂカルフレンド社			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
生物学	1	30	1	1	田口 生夫
到達目標					
生物について学ぶことより、人間の生物学的特徴を理解して、人間と自然との共存を図ることができる。					
時	授業内容		方法	備考	
1	細胞の構造		講義	【事後学習】 ・細胞図を記憶する。	
2	細胞小器官の働き		講義	・細胞小器官の特徴についてまとめる。	
3	細胞の成分		講義	・細胞の構成成分についてまとめる。	
4	酵素・光合成		講義	・光合成のしくみについてまとめる。	
5	酸素呼吸・細胞分裂		講義	・酸素呼吸のしくみについてまとめる。	
6	メンデルの法則・相補・エピスタシス		講義	・遺伝の法則についてまとめる。	
7	伴性遺伝・連鎖と乗換え		講義	・伴性遺伝の法則についてまとめる。	
8	DNAの複製		講義	・DNAの複製のしくみについてまとめる。	
9	タンパク質の合成		講義	・タンパク質の合成のしくみについてまとめる。	
10	発生・形成体		講義	・形成体の働きについてまとめる。	
11	呼吸系・循環系・免疫		講義	・免疫のしくみについてまとめる。	
12	排出系・自律神経系・内分泌腺		講義	・腎臓の働きについてまとめる。	
13	活動電位・感覚器・脳		講義	・興奮が伝わるしくみについてまとめる。	
14	反射・筋肉・動物の行動・生命の進化		講義	・反射のおこるしくみと筋肉収縮についてまとめる。	
15	まとめ		講義	45分	
16	終講試験			45分	
評価方法		筆記試験			
テキスト		生物学【カレッジ版】 医学書院			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
社会学	1	30	1	1	榎田 剛
到達目標					
社会の中で生活している人間と人間に影響を及ぼす社会的要因について理解することができる					
時	授業内容		方法	備考	
1	社会学で何を学ぶか・授業の進め方・時事問題		講義	【事前学習】 ・時事問題から現代社会・社会における諸問題について理解を深める。 ・ニュースや新聞から社会の動向をとらえるとともに自分の考えを持つ。	
2	社会学の誕生		講義		
3	看護の日・コントの精神3段階説		講義		
4	行為と社会的行為(1)		講義		
5	社会的行為(2)		講義		
6	マズローの欲求5段階説		講義		
7	パーソナリティー		講義		
8	性格の類型説		講義		
9	官僚制(1)		講義		
10	官僚制(2)		講義		
11	官僚制(3)		講義		
12	ホーソン実験・ストレス対処法(1)		講義		
13	ストレス対処法(2) 困難を乗り越える力(1)		講義		
14	困難を乗り越える力(2)		講義		
15	まとめ		講義		
16	終講試験			45分	
評価方法		筆記試験・レポート(14回)			
テキスト		なし			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
教育学	1	30	1	1	後野 文雄
到達目標					
人間本来の力、人間らしい生き方を育てることに重点をおいた教育の意義・目的・方法について理解することができる					
時	授業内容		方法	備考	
1	教育とは		講義	45分 	

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
心理学	1	15	1	1	院内講師
到達目標					
心理学の基本的な考え方と自分を含めた人間の心理について理解することができる					
時	授業内容		方法	備考	
1	人間の心の成り立ち・人間の性格 自己理解:「ジョハリの窓」		グループ ワーク 講義	【事後学習】 ・心理検査を体験し、人間 心理と自己理解を深める。	
2	心理検査 自己理解:心理テスト「エゴグラム」		講義		
3	家族アセスメントモデル 家族理解:「ジェノグラム」		講義		
4	バーンアウト ストレスが心と身体に影響を及ぼす仕組み ストレスマネジメント		講義		
5	心理療法 認知行動療法・思考バランスシート		講義		
6	医療における心理学 相談スキルの基礎		講義		
7	心理学のまとめ		講義 DVD		
8	終講試験			45分	
評価方法		筆記試験・レポート			
テキスト		看護学生のための心理学 医学書院			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
人間関係論	1	30	1	2	大川 るり子
到達目標					
自己と他者の理解を深め、人間関係の基本、人間関係形成の技法について理解することができる					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 行動の成り立ち		講義	・グループに分かれて アサーショントレーニング	
2	1. 行動の成り立ち 2. 個人と適応		講義		
3	2. 個人と適応		講義		
4	3. ストレスと適応		講義		
5	4. 対人関係		演習		
6	5. 病気への気づきと来院		講義		
7	6. 入院患者の心理		講義		
8	7. 予後と予防		講義		
9	8. ライフサイクルから見た患者理解		講義		
10	9. 家族		講義		
11	10. 医療従事者に対するケア		講義		
12	11. 医療における心理行動科学 12. カウンセリング技法・マインド		講義		
13	13. 総括・コミュニケーションスタイル		講義		
14	14. 対人関係		演習		
15	まとめ		講義		
16	終講試験			45分	
評価方法		筆記試験			
テキスト		医療における人の心理と行動 培風館			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
英文講読 I	1	30	1	1	テヘラニ クロシ(ジム)
到達目標					
国際化社会に対応できるよう、英語の基礎的能力を習得することができる					
時	授業内容	方法	備考		
1	Nice to meet you	講義 グループ ワーク	・テキストの内容を理解する。 ・文法、単語、長文を理解する。 ・リスニングにて内容を理解する。 ・毎時間、「ナイチンゲール誓詞」原文の朗読を行う。		
2	Nice to meet you	講義 グループ ワーク			
3	Family Feelings ①	講義 グループ ワーク			
4	小テスト DVD視聴	講義			
5	Family Feelings ②	講義 グループ ワーク			
6	In the neighborhood	講義 グループ ワーク			
7	In the neighborhood	講義 グループ ワーク			
8	小テスト DVD視聴	講義			
9	My style, your style	講義 グループ ワーク			
10	My style, your style	講義 グループ ワーク			
11	小テスト DVD視聴	講義			
12	What's your schedule? ①	講義 グループ ワーク			
13	What's your schedule? ②	講義 グループ ワーク			
14	小テスト DVD視聴	講義			
15	まとめ	講義	45分		
16	終講試験		45分		
評価方法		筆記試験 暗唱テスト			
テキスト		New English Upgrade 1 MACMILLAN			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
英文講読Ⅱ	1	30	1	2	テヘラニ クロシ(ジム)
到達目標					
医学英語の基礎的能力を養うことができる					
時	授業内容	方法	備考		
1	Past times, fast times	講義 グループ ワーク	・英文を読んで情報や意向などを理解し概要や要点をとらえる。 ・聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどについて整理して書く。		
2	Past times, fast times	講義 グループ ワーク			
3	The things we eat ①	講義 グループ ワーク			
4	小テスト DVD視聴	DVD			
5	The things we eat ②	講義 グループ ワーク			
6	Getting away	講義 グループ ワーク			
7	Getting away	講義 グループ ワーク			
8	小テスト DVD視聴	DVD			
9	The media and me	講義 グループ ワーク			
10	The media and me	講義 グループ ワーク			
11	小テスト DVD視聴	講義 グループ ワーク			
12	Hopes and dreams	講義 グループ ワーク			
13	Hopes and dreams	講義 グループ ワーク			
14	小テスト DVD視聴	DVD			
15	まとめ	講義		45分	
16	終講試験			45分	
評価方法		筆記試験			
テキスト		New English Upgrade 1 MACMILLAN			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
看護英会話	1	30	2	1	Chaitanya Bhandare
到達目標					
医療の場において必要な英単語を理解し、英語で会話できる					
時	授業内容	方法	備考		
1	Unit 1 : Hospital Departments	講義 グループ ワーク	・グループワーク ・スピーキング ・リスニング		
2					
3	Unit 3: Parts of the Body	講義 グループ ワーク			
4					
5	Unit 4 : Illnesses	講義 グループ ワーク			
6					
7	Unit 5: Daily Routine	講義 グループ ワーク			
8					
9	Unit 6 : Hospital Objects	講義 グループ ワーク			
10					
11	Unit 8 : Hospital Directions and Instructions	講義 グループ ワーク			
12					
13	看護論文の要約を和訳	講義 グループ ワーク			
14					
15	まとめ	講義		45分	
16	終講試験			45分	
評価方法	筆記試験 口頭テスト				
テキスト	ホスピタル・イングリッシュ Vital Signs 南雲堂				

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
保健体育	1	30	1	1	藤原 忠夫
到達目標					
体力を增強し、健全な心身の発達を図り、チームワークを必要とする種目を通して、メンバーシップ・リーダーシップについて理解することができる。					
時	授業内容		方法	備考	
1	ストレッチ		実技	・チームを編成し、試合形式で実施する。	
2	バレーボール		実技		
3	バレーボール		実技		
4	バレーボール		実技		
5	バスケットボール		実技		
6	バスケットボール バトミントン・卓球		実技		
7	ソフトバレーボール		実技		
8	ソフトバレーボール		実技		
9	ソフトバレーボール		実技		
10	バレーボール(トーナメント)		実技		
11	バレーボール(トーナメント)		実技		
12	バスケットボール(リーグ戦)		実技		
13	バスケットボール		実技		
14	バスケットボール		実技		
15	マイパック大会		実技		
評価方法		実技試験			
テキスト		なし			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
解剖生理学Ⅰ (細胞・組織・血液造血器系)	1	30	1	1	院内講師(医師)
到達目標					
複雑な人間を人体と構造・機能の基本単位である細胞から理解することができる 血液造血器系のしくみと働きを理解することができる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 素材からみた人体 1)細胞の構造と機能	講義	【事後学習】 ・血液の働きと成分についてまとめる。 ・京都府立大学解剖室見学 解剖見学に向け、人体の構造・機能について学習する。 ・「解剖見学を通しての学びと生命の尊厳について」発表 45分		
2	2)細胞を構成する物質とエネルギーの生成	講義			
3	3)細胞膜の構造と機能(漿膜・粘膜)	講義			
4	4)細胞の増殖と染色体	講義			
5	5)分化した細胞が作る組織	講義			
6	2. 形からみた人体 1)解剖学的正常位 2)方向、面と断面 3)人体の部位 4)人体内部の腔所	講義			
7	3. 機能からみた人体 1)器官と器官系	講義			
8	2)体液とホメオスタシス	講義			
9	4. 血液の組成と機能	講義			
10	5. 造血・止血機能	講義			
11	6. 解剖見学に向けて 各臓器の大きさ・位置・構造について	グループワーク			
12	各臓器の大きさ・位置・構造(まとめ)	個人ワーク			
13	解剖見学	解剖室 見学			
14					
15	解剖見学まとめ	グループワーク			
16	終講試験				
評価方法		筆記試験 レポート			
テキスト		専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学 医学書院 解剖生理をおもしろく学ぶ 新訂版 サイオ社			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
解剖生理学Ⅱ (筋骨格器系・消化器系)	1	30	1	1	院内講師(医師)
到達目標					
筋肉運動のしくみを理解し、刺激に応じた反応のしくみを理解することができる 消化・吸収の働きについて理解することができる 人間の恒常性を維持するしくみを理解することができる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 骨格 1) 人体の骨格・骨の形態と構造 骨の組織と組成、骨の発生と成長	講義	骨格模型を組み立てながら骨格を理解する。 		

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
解剖生理学Ⅲ (呼吸器系・循環器系)	1	30	1	1	院内講師(医師)
到達目標					
呼吸・循環系のしくみと働きを理解することができる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 呼吸器系 呼吸器(気道・肺)の構造	講義	【事後学習】 ・呼吸器系を構成する器官とその働きについてまとめる。 ・ガス交換のしくみを関連してまとめる。		
2	2. 呼吸運動による肺胞換気・ガス交換	講義			
3	3. 呼吸回数・一回換気量	講義			
4	4. スパイロメータ・ガス交換	講義			
5	5. 換気血流比不均等	講義			
6	6. 呼吸の調節 呼吸運動と調整のメカニズム	講義			
7	7. 呼吸器の調節発表	グループワーク			
8	呼吸器系解剖生理のまとめ	個人ワーク			
9	8. 循環器系 循環器系の構成・心臓の構造と機能	講義	【事後学習】 ・循環器系のしくみと働きについてまとめる。 ・血圧の調整についてまとめる。		
10	9. 心臓の拍出機能	講義			
11	10. 末梢循環器系の構造 血管の構造・肺循環の血管・体循環の動脈 体循環の静脈	講義			
12	11. 血液の循環と調整	講義			
13	12. 血液の循環と調整・リンパとリンパ管	講義			
14	循環器系解剖生理のまとめ	グループワーク			
15	血圧測定の方法を解剖生理学の視点から考える				
16	終講試験		45分		
評価方法		筆記試験			
テキスト	専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学 医学書院 解剖生理をおもしろく学ぶ 新訂版 サイオ社				

専門基礎分野:「人体の構造と機能」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
解剖生理学Ⅳ (腎・泌尿器系・生殖器系・免疫系)	1	30	1	2	院内講師(医師)
到達目標					
細胞の生命活動を支える防御機構、排泄、性と生殖のしくみと働きを理解することができる					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 腎泌尿器系 腎臓・糸球体・尿細管・傍糸球体装置の構造と機能		講義	【事後学習】 ・尿が生成し排泄するまでの経路について各器官の働きを関連させてまとめる。	
2	腎臓から分泌される生理活性物質		講義		
3	排尿路(尿管・膀胱・尿道)の構造と神経支配		講義		
4	体液の調節		講義		
5	2. 免疫系 非特異的防御機構・特異的防御機構		講義	【事後学習】 ・生体防御のしくみについてまとめる。	
6	生体防御の関連臓器		講義		
7	腎泌尿器系・免疫系解剖生理のまとめ		個人ワーク	45分	
8	3. 生殖器系 男性生殖器・女性生殖器		講義	【事後学習】 ・人の成長と発達・老化を各器官の変化に視点をあてまとめる。	
9	性周期・性機能に関連するホルモン		講義		
10	受精と胎児の発生 1)生殖細胞と受精 2)初期発生と着床		講義		
11	受精と胎児の発生 3)胎児と胎盤・臍帯・妊娠中の母体の変化		講義		
12	4)分娩 4胎児の血液循環		講義		
13	人間の発生と成長発達について		グループワーク		
14	人間の発生と成長発達について		グループワーク		
15	人間の発生と成長発達について発表		グループワーク発表		
16	終講試験			45分	
評価方法		筆記試験			
テキスト	専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学 医学書院 解剖生理をおもしろく学ぶ 新訂版 サイオ社				

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
解剖生理学Ⅴ (脳神経・内分泌系)	1	30	1	2	院内講師(医師)
到達目標					
脳のしくみ、内分泌系のしくみと働きを理解することができる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 神経系の構造と機能	講義	【事後学習】 ・脳の12神経のしくみと機能、交感神経、副交感神経についてまとめる。 45分 【事後学習】 ・ある作用に対して複数のホルモンが協力し機能しているのかまとめる。 45分		
2	2. 中枢神経系の構造と機能 大脳・間脳・脳幹・小脳・脊髄	講義			
3		講義			
4	3. 末梢神経系の支配域と機能 脊髄神経・脳神経・体性神経・自律神経	講義			
5	4. 神経伝達のメカニズム	講義			
6	5. 内臓神経系による内臓の調整	講義			
7	6. 随意運動と不随運動	講義			
8	脳神経系解剖生理のまとめ	個人ワーク			
9	7. 内分泌による調整 内分泌とホルモン ホルモン分泌の調節	講義			
10	8. 全身の内分泌腺と内分泌細胞 1)視床下部・下垂体系の構造・ホルモン	講義			
11		講義			
12	2)甲状腺腺・副甲状腺の構造とホルモン	講義			
13	3)膵臓の構造と機能	講義			
14	4)副腎・心臓の構造と機能	講義			
15	5)性腺の構造と機能	講義			
16	終講試験				
評価方法		筆記試験			
テキスト	専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理学 医学書院 解剖生理をおもしろく学ぶ 新訂版 サイオ社				

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
栄養学	1	30	1	2	酒井 正春 院内講師
到達目標					
人間にとっての栄養の意義・各栄養素と栄養価、ライフサイクルにおける栄養所要量について理解することができる					
健康回復に必要な栄養と食品・調理法について理解することができる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 健康と栄養-I 1)栄養とは 2)健康と栄養-食生活と評価 3)栄養状態アセスメント	講義	担当:酒井 正春 【事前・事後学習】 ・講義内容にそって、予習 をしておく。 ・講義終了後は復習を必ず する。		
2	2. 健康と栄養-II 1)栄養評価のための血液検査 2)食行動と管理目標	講義			
3	3. 日常生活と栄養 1)食習慣と栄養 2)日本人の食事摂取量 3)スポーツと栄養	講義			
4	4. 食物と栄養-I 1)食品の種類と栄養素 2)栄養素とその働き-1(エネルギー・炭水化物)	講義			
5	4. 食物と栄養-II 1)栄養素とその働き-2(脂質・タンパク質)	講義			
6	4. 食物と栄養-III 1)ビタミン・ミネラル・水分・電解質	講義			
7	5. 食物と栄養-IV 食物の摂取と消化・吸収	講義			
8	6. ライフステージと健康教育-I 1)ライフステージによって異なる栄養 2)母性の栄養 3)乳幼児期	講義			
9	6. ライフステージと健康教育-II 1)学童期 2)思春期 3)成人期 4)老年期	講義			
10	栄養学まとめ	個人 ワーク			
11	7. 栄養指導とは 1)治療食の種類	講義	45分 ・栄養学整理ノートで学習する。 担当:院内講師 ・治療食の試食体験		
12	8. 疾患別食事指導 1)糖尿病 2)肝炎・肝硬変	講義			
13	3)高血圧・脂質異常症・肥満・痛風・虚血性心疾患	講義			
14	4)慢性腎臓病 5)摂食・嚥下障害	講義			
15	6)潰瘍性大腸炎・クローン病 7)胃切除術後	講義			
16	終講試験		45分		
評価方法		筆記試験			
テキスト		わかりやすい栄養学 臨床・地域で役立つ食生活指導の実際 廣川書店 解剖生理をおもしろく学ぶ 新訂版 サイオ社			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
生化学	1	30	1	1	酒井 正春
到達目標					
生体にある化学物質や分子の構成とどのように酵素、代謝反応が生体内で調整されているのかを分子レベルで理解することができる					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 生化学で何を学ぶか 1)細胞の構造 2)生体を構成する構分子 3)細胞の構造と働き		講義	【事前・事後学習】 ・講義内容にそって、予習をしておく。 ・講義終了後は復習を必ずする。	
2	2. 代謝の基礎と酵素・補酵素 1)酵素反応とは 2)至適条件 3)補酵素 4)酵素反応阻害		講義		
3	3. 糖質の構造と機能・糖質代謝-I 1)ブドウ糖 2)多糖類 3)消化 4)解糖		講義		
4	4. 糖質代謝-II 1)TCA回路、電子伝達系 2)グルコーゲン代謝 3)ペントースリン酸経路 4)糖新生		講義		
5	5. 脂質の構造と機能 1)脂肪酸 2)中性脂肪 3)リン脂質 4)コレステロール		講義		
6	6. 脂質の代謝 1)脂質の消化吸收 2)脂質のβ-酸化 3)脂質合成		講義		
7	7. 蛋白質の構造と機能 1)アミノ酸 2)たんぱく質の二次 3)三次構造		講義		
8	8. 蛋白質、アミノ酸の代謝 1)蛋白質の消化 2)アミノ基転移反応 3)尿素回路 4)含窒素化合物		講義		
9	9. 遺伝子と核酸 1)遺伝学の基礎知識 2)核酸の構造と代謝		講義		
10	10. 遺伝子の複製・修復 1)DNA複製・修復 2)遺伝子多型		講義		
11	11. 遺伝子の発現-I 1)遺伝子の発現制御 2)転写 3)プロセッシング		講義		
12	12. 遺伝子の発現-II 1)翻訳・翻訳後の修飾 2)たんぱく質の分解		講義		
13	13. シグナル伝達 1)シグナル伝達とは 2)内分泌-ホルモンの作用 3)作用機序		講義		
14	14. がん 1)細胞周期とがん 2)がん遺伝子 3)がん抑制遺伝子		講義		
15	終講試験			45分	
16	まとめ			45分	
評価方法		筆記試験			
テキスト		専門基礎分野 人体の構造と機能 解剖生理をおもしろく学ぶ 新訂版		生化学	医学書院 サイオ社

専門基礎分野:「疾病の成り立ちと回復の促進」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
病理学(総論)	1	15	1	1	院内講師(医師)
到達目標					
身体機能の低下や異常の病因、病変について理解することができる					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 病理学の概念 2. 病的障害の原因と病理的变化 1)病因論(内的・外的)		講義	【事前学習】 ・血栓と梗塞・側副循環 浮腫・炎症の定義、徴候、 種類についてまとめる。 ・腫瘍の定義と分類についてまとめる。	
2	2)細胞の損傷と適応 3)物質沈着		講義		
3	4)循環障害 (1)循環系の概要 (2)浮腫 (3)充血とうっ血 (4)出血 (5)血栓症 (6)塞栓症 (7)虚血と梗塞 (8)側副循環による障害 (9)ショック (10)高血圧症 (11)DIC		講義		
4	5)炎症 (1)炎症と分類 (2)炎症の原因 (3)急性炎症と慢性炎症 (4)炎症細胞と炎症メディエーター (5)治療 (6)炎症の各型		講義		
5	6)組織の修復と創傷治癒 7)免疫と免疫不全 8)アレルギーと自己免疫疾患		講義		
6	9)代謝障害 10)老化と死 11)先天異常と遺伝子異常		講義		
7	12)腫瘍 (1)定義と分類 (2)発生病理 (3)悪性腫瘍の発生機序 (4)転移と進行度		講義		
8	終講試験			45分	
評価方法		筆記試験			
テキスト		専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 病理学 医学書院			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
病態学Ⅰ (循環器系・血液造血器系)	1	30	1	2	院内講師(医師)
到達目標					
循環器系・血液造血器系の身体機能の低下や異常の病因・病変について理解するとともに、主な検査・診断、治療を理解することができる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 循環器系の機能障害 1)症状:胸痛・動悸・呼吸困難	講義	【事前学習】 各系統のはたらきやしくみを学習する。解剖生理学・病態生理学のテキストを活用し、関連付けて学習する。		
2	1)症状:浮腫・チアノーゼ・失神・四肢の疼痛 ショック	講義			
3	2)検査:心電図・心エコー 心臓カテーテル法(冠動脈造影法)	講義	【事前学習】 ・心電図の原理についてまとめる。		
4	3)機能障害のメカニズムと診断、治療 (1)虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞)	講義		・心筋梗塞と狭心症、致死的不整脈の心電図変化の特徴をまとめる。	
5	(2)心不全 (3)不整脈 (4)弁膜症				
6	(5)心膜炎・心筋症 (6)大動脈解離				
7	(7)動脈の閉塞性疾患 (8)静脈系疾患(静脈血栓症・静脈瘤・肺塞栓症) (9)高血圧・起立性低血圧				
8	循環器系の機能障害のまとめ	個人ワーク	45分		
9	2. 腎臓の機能障害 1)症状:浮腫・電解質異常・尿毒症 2)検査:腎機能検査	講義	【事前学習】 ・貧血の種類とその原因についてまとめる。		
10	3)機能障害のメカニズムと診断、治療 (1)腎の悪性腫瘍 (2)腎不全 4)その他:透析・腎移植	講義			
11	3. 血液造血器系の機能障害 1)症状:貧血・白血球減少症・脾腫・出血性素因	講義			
12	2)検査・治療:骨髄穿刺・化学療法	講義			
13	3)機能障害のメカニズムと診断、治療 (1)貧血 (2)白血病	講義			
14	(3)悪性リンパ腫 (4)多発性骨髄腫	講義			
15	(5)出血傾向のある疾患:紫斑病・播種性血管内凝固症候群(DIC)、血友病	講義			
16	終講試験		45分		
評価方法		筆記試験			
テキスト		専門分野Ⅱ 成人看護学 循環器 医学書院 専門分野Ⅱ 成人看護学 血液、造血器 医学書院 専門分野Ⅱ 成人看護学 腎・泌尿器 医学書院 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 病態生理学 医学書院			

専門基礎分野:「疾病の成り立ちと回復の促進」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
病態学Ⅱ (呼吸器系・腎泌尿器系)	1	30	1	2	院内講師(医師)
到達目標					
呼吸器系・泌尿器系の身体機能の低下や異常の病因・病変について理解するとともに、主な検査・診断、治療を理解することができる					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 呼吸器系の機能障害 1)症状:呼吸困難		講義	【事前学習】 各系統のはたらきやしぐみを学習する。解剖生理学・病態生理学のテキストを活用し、関連付けて学習する。 45分	
2	1)症状:咳嗽、喀痰・喀血		講義		
3	2)検査:肺機能検査・気管支鏡		講義		
4	3)機能障害のメカニズムと診断、治療 (1)肺炎 (2)肺結核		講義		
5	(3)慢性閉塞性肺疾患 (4)気管支喘息		講義		
6	(5)肺腫瘍 (6)呼吸不全 (7)胸膜の疾患		講義		
7	呼吸器系の機能障害のまとめ		個人ワーク		
8	2. 外科的治療 1)胸部外科(肺切除術)		講義		
9	2)乳房疾患の外科(乳房切除)		講義		
10	外科的治療のまとめ		個人ワーク		
11	3. 泌尿器系の機能障害 1)症状:排尿障害		講義		
12	2)検査:膀胱造影・尿道造影・膀胱鏡		講義		
13	3)機能障害のメカニズムと診断、治療 (1)泌尿器の悪性腫瘍		講義		
14	(2)尿器・性器の感染:腎盂腎炎・膀胱炎等		講義		
15	(3)尿路通過障害:尿路結石・前立腺肥大症		講義		
16	終講試験			45分	
評価方法		筆記試験			
テキスト		専門分野Ⅱ 成人看護学 呼吸器 医学書院 専門分野Ⅱ 成人看護学 腎・泌尿器 医学書院 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 病態生理学 医学書院			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
病態学Ⅲ (運動器系・脳神経系)	1	30	1	2	片山 義敬 院内講師(医師)
到達目標					
運動器系・脳神経系の身体機能の低下や異常の病因・病変について理解するとともに、主な検査・診断、治療を理解することができる					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 運動器系の機能障害 1)症状:関節運動の異常(関節拘縮)・跛行		講義	担当:片山 義敬 【事前学習】 各系統のはたらきやしくみを学習する。解剖生理学・病態生理学のテキストを活用し、関連付けて学習する。 【事前学習】 ・牽引とギブス保存療法をまとめる。	
2	1)症状:神経の障害(運動麻痺・感覚障害)		講義		
3	2)検査:関節可動域測定・骨密度の測定・関節鏡		講義		
4	3)機能障害のメカニズムと診断、治療 (1)骨折・脱臼 (2)骨髄炎		講義		
5	(3)変形性関節症 (4)骨腫瘍		講義		
6	(5)腰椎椎間板ヘルニア (6)慢性関節リウマチ		講義		
7	4)その他:ギブス保存療法、手術療法		講義		
8	運動器系の機能障害のまとめ		個人ワーク		
9	2. 脳神経系の機能障害 1)症状:意識障害・頭蓋内圧亢進症状・頭痛		講義	担当:院内講師 【事前学習】 ・意識レベルの見方、神経学的サインの見方についてまとめる。	
10	1)症状:知覚障害・運動機能障害		講義		
11	2)検査:脳脊髄液検査・脳血管撮影 意識レベル・神経学的サインの見方		講義		
12	3)機能障害のメカニズムと診断、治療 (1)脳血管疾患		講義		
13	(2)脳腫瘍		講義		
14	(3)頭部外傷 (4)正常水頭症		講義		
15	脳神経系の機能障害のまとめ		個人ワーク		
16	終講試験				
評価方法		筆記試験			
テキスト	専門分野Ⅱ 専門分野Ⅱ 専門基礎分野	成人看護学 成人看護学 疾病の成り立ちと回復の促進	運動器 脳・神経 病態生理学	医学書院 医学書院 医学書院	

専門基礎分野:「疾病の成り立ちと回復の促進」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
病態学Ⅳ (消化器系・内分泌系)	1	30	1	2	院内講師(医師)
到達目標					
消化器系・内分泌系の身体機能の低下や異常の病因・病変について理解するとともに、主な検査・診断、治療を理解することができる					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 消化器系の機能障害 1)症状:腹痛・嘔吐・吐血・下血		講義	【事前学習】 各系統のはたらきやしくみを学習する。解剖生理学・病態生理学のテキストを活用し、関連付けて学習する。	
2	1)症状:黄疸・腹水・肝性昏睡・門脈圧亢進症状		講義		
3	2)検査:内視鏡検査・超音波検査 肝生検・肝機能検査		講義		
4	3)機能障害のメカニズムと診断、治療 (1)食道癌 (2)胃癌 (3)潰瘍性大腸炎 クロウン病 (4)腸閉塞 (5)結腸癌・直腸癌		講義		
5	(6)肝疾患 (7)総胆管結石 (8)膵疾患		講義		
6	4)外科的治療 (1)食道外科		講義	【事前学習】 ・胃全摘・亜全摘術について術式の違いについてまとめる。	
7	(2)胃・十二指腸の外科		講義		
8	(3)肝・胆・膵の外科		講義		
9	(4)大腸・小腸・肛門部の外科		講義		
10	2. 内分泌系の機能障害 1)症状:高血糖・低血糖 2)検査:内分泌疾患の検査		講義	【事前学習】 ・糖尿病のメカニズム・症状・治療についてまとめる。	
11	3)機能障害のメカニズムと診断、治療 (1)下垂体系疾患 (2)甲状腺疾患 (3)副腎疾患		講義		
12	(4)糖尿病		講義		
13					
14	(5)脂質異常症・肥満症 メタボリックシンドローム・尿酸代謝異常		講義		
15	内分泌系の機能障害のまとめ		個人ワーク	45分	
16	終講試験			45分	
評価方法		筆記試験			
テキスト		専門分野Ⅱ 成人看護学 消化器 医学書院 専門分野Ⅱ 成人看護学 内分泌・代謝 医学書院 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 病態生理学 医学書院			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
病態学Ⅴ (生殖器系・感覚器系)	1	30	1	2	院内講師(医師)
到達目標					
生殖器系・感覚器系の身体機能の低下や異常の病因・病変について理解するとともに、主な検査・診断、治療を理解することができる					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 生殖器系の機能障害 1)症状:外陰部掻痒感・自律神経症状 2)検査:内診・頸管粘膜検査・画像検査		講義	【事前学習】 各系統のはたらきやしくみを学習する。解剖生理学・病態生理学のテキストを活用し、関連付けて学習する。	
2	3)機能障害のメカニズムと診断、治療 (1)外陰部・陰部の炎症 (2)子宮の疾患(子宮内膜症・子宮筋腫・子宮癌)		講義		
3	(3)卵巣の疾患(卵巣機能不全・卵巣癌) (4)月経異常		講義	【事後学習】 ・子宮筋腫・子宮癌の特徴と症状・診断・治療・検査についてまとめる。	
4	(5)更年期障害 (6)不妊症 (7)性感染症		講義		
5	生殖器系の機能障害のまとめ		個人ワーク	45分	
6	2. 皮膚科 1)皮膚の構造、生理 2)症状:掻痒感 3)検査:パッチテスト・皮内反応		講義	【事後学習】 ・アトピー性皮膚炎について原因・病型・症状・治療についてまとめる。	
7	4)機能障害のメカニズムと診断、治療 (1)湿疹・皮膚炎 (2)帯状疱疹 (3)熱傷		講義		
8	(4)褥瘡 (5)疥癬 (6)蜂窩織炎 (7)光線療法・副腎皮質ホルモン		講義		
9	3. 眼科 1)眼の構造と機能 2)症状:視力障害・視野異常・充血 3)検査:視力検査・眼底検査・眼圧検査		講義	【事後学習】 ・眼底鏡の使用方法・代表的な異常所見についてまとめる。	
10	4)機能障害のメカニズムと診断、治療 (1)白内障		講義		
11	(2)緑内障 (3)網膜症・網膜剥離		講義		
12	4. 耳鼻咽喉科 1)耳鼻咽喉の構造と機能 2)症状:難聴・眩暈・嗅覚障害・鼻漏 3)検査:聴力検査・耳管通気検査・嗅覚検査		講義		
13	4)機能障害のメカニズムと診断、治療 (1)外耳炎・内耳炎 (2)メニエール病 (3)慢性副鼻腔炎		講義		
14	(4)咽頭・喉頭癌 (5)甲状腺疾患 (6)手術療法		講義		
15	感覚器系の機能障害のまとめ		個人ワーク		
16	終講試験			45分	
評価方法		筆記試験			
テキスト		専門分野Ⅱ 成人看護学 女性生殖器 専門分野Ⅱ 成人看護学 皮膚 専門分野Ⅱ 成人看護学 眼 専門分野Ⅱ 成人看護学 耳鼻咽喉	医学書院 医学書院 医学書院 医学書院		

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
微生物学	1	30	1	2	院内講師(医師)
到達目標					
微生物及び健康を阻害する原因となる病原微生物についての知識及び人体への影響について理解することができる					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 微生物とは		講義	【事後学習】 ・感染の種類と経路についてまとめる。	
2	2. 感染とその防御 1)感染の成立とその経路		講義		
3	2)感染に関する生体防御機構		講義		
4	3)感染源・感染経路からみた感染症 感染予防		講義		
5	3. 感染症の検査・診断・治療		講義		
6	4. おもな病原微生物 1)細菌		講義		
7	2)真菌・原虫・ウイルス		講義		
8	終講試験			45分	
評価方法		筆記試験			
テキスト		専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 微生物学 医学書院			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
薬理学	1	30	1	2	院内講師(薬剤師)
到達目標					
身体の機能の低下や異常の回復を促進する治療の原理について理解することができる					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 薬理学を学ぶにあたって		講義	【事後学習】 ・各章のゼミナールを学習をする。	
2	2. 薬理学の基礎的知識		講義		
3	3. 看護業務に必要な薬の知識 4. 輸血製剤・輸血剤		講義		
4	5. 抗感染症薬		講義		
5	6. 消毒薬		講義	45分	・ステロイド療法についてまとめる。
6	7. 抗がん薬		講義	45分	
7	8. 免疫治療薬 9. 漢方薬		講義		
8	10. 抗アレルギー薬・抗炎症薬		講義		
9	11. 末梢での神経活動に作用する薬物		講義		
10	12. 中枢神経系に作用する薬物		講義		
11	13. 循環器系に作用する薬物		講義	45分	
12			講義		
13	14. 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物		講義		
14	15. 物質代謝に作用する薬物		講義		
15	16. 皮膚科用薬・眼科用薬 17. 救急の際に使用される薬物		講義		
16	終講試験			45分	
評価方法		筆記試験			
テキスト		専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学 医学書院			

専門基礎分野:「健康支援と社会保障制度」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
公衆衛生学	1	30	2	2	小野 伸一郎
到達目標					
地域社会での公衆衛生活動について理解することができる 公衆衛生と健康問題の関連性に気づき、各種調査から健康増進、疾病の予防など看護の役割について理解することができる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 公衆衛生の概要 1)公衆衛生行政 2)公衆衛生の領域、活動の特徴	講義	・社会福祉、各看護学と関連づける。 ・国民衛生の動向を活用しながら、統計の見方を学習する。 【事後学習】 ・感染症の対象疾患と患者等の届出について・感染症類型と医療体制についてまとめる。 ・地域における保健活動を担う、市町村保健センターと保健所の役割、業務の違い、法的根拠を学習する。		
2	3)プライマリヘルスケア 4)ヘルスプロモーションの展開 5)WHO加盟国の役割	講義			
3	2. 健康に関連した指標 1)国勢調査 2)人口動態 3)人口動態 4)出生 5)死亡・死因 6)死産・周産期死亡・乳児死亡 7)平均寿命	講義			
4	3. 生活環境と健康 1)健康の成立要因 2)健康に影響する環境 (1)生態学的環境 (2)物理化学的環境 (3)社会的環境 3)身体的・精神的・社会的影響 4)地球環境問題	講義			
5		講義			
6	4. 生活環境の保全 1)環境基本法 2)典型7公害(大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭) 2)ゴミ、廃棄物 一般廃棄と産業廃棄物	講義			
7	5. 労働衛生 1)食品管理 2)職場の労働管理 (1)労働安全衛生法 (2)健康管理・職業病の予防 (3)トータルヘルスプロモーション	講義			
8	6. 感染症とその予防対策 ・結核予防法、DOTS・HIV感染症の対策	講義			
9	7. 地域保健活動:成人保健 1)健康日本21 2)健康増進法 3)健康診断・検診、がん対策、生活習慣病対策	講義			
10	8. 地域保健活動:母子保健と歯の健康	講義			
11	9. 地域保健活動:高齢者保健 1)地域包括ケアシステム 2)高齢者保健の課題 3)高齢者の転倒防止と認知症予防の運動(実技)	講義			
12	10. 地域保健活動:精神保健 1)活動理念 2)地域活動を支えるしくみ 3)自殺予防対策	講義			
13	11. 地域保健活動:難病・障害保健 1)関連する法律 2)地域支援システム	講義			
14	12. 保健危機管理・災害保健	講義			
15	まとめ	講義	45分		
16	終講試験		45分		
評価方法		筆記試験			
テキスト		専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 公衆衛生 医学書院 国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
社会福祉Ⅰ	1	30	2	1	澤野 純一
到達目標					
医療保障・介護保障・高齢者福祉について学び、社会福祉と医療、社会福祉と医療、社会保障制度の連携について理解することができる。					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 社会保障制度と社会福祉 1)社会福祉の概念と定義 2)社会福祉の機能・体系		講義	【事後学習】 ・障害福祉に対する法律と適応年齢についてまとめる 身体障害者福祉(身体障害者の定義・手帳の申請・交付・福祉の種類)についてまとめる。 ・介護保険制度に関しては、介護保険制度の変遷、被保険者、要介護認定過程、保険給付内容と利用限度額、ケアマネジメントのプロセスについて学習する。 ・成年後見人制度に関しては、概要(利用目的、対象者、種類、類型、利用プロセス)について学習する。 ・各福祉の手続きについてまとめる。	
2			講義		
3	2. 社会福祉の法制度 1)社会福祉の歴史的展開 2)社会保障・社会福祉の動向		講義		
4			講義		
5	3)社会福祉サービスの内容とサービス提供の仕組み 4)社会福祉法と福祉6法 (1)生活保護法 (2)児童福祉法 (3)身体障害者福祉法 (4)知的障害者福祉法 (5)老人福祉法 (6)母子及び寡婦福祉法		講義		
6			講義		
7	3. 公的扶助 1)貧困・低所得問題と公的扶助制度 2)生活保護法制度と施策		講義		
8			講義		
9	4. 介護保障 1)介護保障の歴史 2)介護保険制度の概要 保険者・被保険者・要介護・要支援の認定 ケア・マネジメント		講義		
10			講義		
11	3)保険給付 4)介護保険制度の課題		講義		
12			講義		
13	5. 高齢者福祉の施策 1)高齢者医療制度 2)高齢者福祉の施策 (1)在宅福祉事業 (2)施設福祉 (3)認知症高齢者対策		講義		
14			講義		
15	終講試験			45分	
16	振り返り			45分	
評価方法		筆記試験			
テキスト		専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 社会保障・社会福祉 医学書院			

専門基礎分野:「健康支援と社会保障制度」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
社会福祉Ⅱ	1	30	2	1	院内講師 桑原 位修 教員
到達目標					
所得保障・公的扶助・障害者福祉・児童家庭福祉のしくみを知り、社会福祉と医療、社会保障制度の連携について理解することができる。 社会福祉施設を見学し、国民のニーズに応えるための方法や、サービスの活用の実際を理解することができる。					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 社会福祉援助技術 MSWの役割	講義	担当:院内講師 <		

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
関係法規	2	30	3	1・2	院内講師 教育主事
到達目標					
看護職に必要な法律と国民の健康や生活を守るための法律について理解することができる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 法の概念	講義	担当: 院内講師		
2	2. 医事法 1)医療法	講義	【事前学習】 ・保健医療従事者の業務と法的責任について学習する		
3	2)医療関係資格法 3)保健医療福祉資格法 4)医療を支える法	講義			
4	3. 保健衛生法 1)共通保健法 2)感染症に関する法	講義			
5	2)感染症に関する法	講義			
6	4. 労働法と社会基盤整備 1)労働法 2)環境法 3)社会保険法 4)福祉法	講義			
7	5. 法律のまとめ	講義			
8	6. 薬務法 1)薬事一般に関する法律 2)薬剤師法 3)毒物及び劇物取締法 4)麻薬及び向精神薬取締法 5)あへん法 6)大麻取締法 7)覚せい剤取締法 8)薬剤管理の実際(見学)	講義			
9		講義			
10	7. 保健師・助産師・看護師法 1)総則(目的・定義) 2)免許 3)試験 4)業務 5)雑則 6)附則 保健師・助産師・看護師法の沿革	講義	担当: 教育主事		
11	8. 保健師・助産師・看護師法の附属法令(政令・省令)	講義			
12	9. 看護師等養成所の運営に関するガイドライン	講義			
13	10. 看護師の業務範囲と責任 11. 個人情報の保護に関する法律・ガイドライン	講義			
14	12. 看護師等人材確保の促進に関する法律 13. 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律	講義			
15	14. 医療関係法規 1)社会福祉法及び介護福祉法 2)法による看護と介護の違い	講義	45分		
16	終講試験		45分		
評価方法		筆記試験			
テキスト		専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 看護関係法令 医学書院 看護六法 新日本法規			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名	
看護学概論	1	30	1	1・2	教育主事 (実務経験：病院での看護)	
到達目標						
看護の基本となる概念を学び、看護の位置づけと役割を理解できる 看護倫理について理解できる 看護を学問として追求し科学的思考を踏まえて主体的に看護について行動できる素地を養うことができる						
時	授業内容	方法	備考			
1	1. 看護とは 1) 看護の主要概念(人間・健康・環境・看護)	講義	・看護のイメージを記述し発表する。講義の最後に、イメージの変化を各自整理する。			
2		グループワーク				
3		発表				
4	2) 看護の定義 ・保健師助産師看護師法・看護職能団体 ・看護理論家 (1) ナイチンゲール (2) ヘンダーソン 3) 看護の役割と機能 (1) 看護ケアについて (2) 看護実践とその質保障に必要な要件 (3) 看護の質保障に不可欠な要件 (4) 看護の役割・機能の拡大	講義	【課題】 ・ナイチンゲール著「看護覚え書」を読んでレポートを書く。 ・ヘンダーソン著「看護の基本となるもの」を読んでレポートを書く。 45分			
5	2. 看護の対象の理解 1) 看護の対象としての人間 ・人間のこころとからだ、生涯発達しつづける存在 ・人間の暮らし	講義				
6	3. 健康のとらえ方 ・健康とは、健康でない状態、障害とは 生活と健康、健康の実現、ライフサイクルと健康・生活 健康・生活とQOL	講義				
7	4. 看護の提供者 看護の歴史 1) ナイチンゲール以前の看護 2) 近代看護の確立 3) アメリカにおける看護学の発展 4) 日本における看護の変遷 ・職業としての看護 ・看護職の資格と養成にかかわる制度	講義				
8	5. 看護サービスの提供の場 1) 看護サービス提供の担い手 2) チーム医療 3) 医療施設における看護 4) 地域における看護 5) 継続看護	講義				
9	6. 看護理論 1) 看護理論とは 2) 看護理論に基づいた実践	講義				
10	各理論家の背景、主要概念、理論の内容 ・事例を用いた看護の展開または具体的に理解した内容	グループワーク				
11		グループワーク				
12	各理論家のまとめ	発表				
13	7. 看護をめぐる制度と政策 1) 看護制度 2) 保健師助産師看護師法 3) 看護業務基準	講義				
14	8. 看護における倫理 1) 看護倫理 2) 患者の権利とインフォームドコンセント 3) 倫理的問題 4) 看護者の倫理綱領	講義				
15	5) 医療をめぐる倫理原則とケアの倫理 6) 看護学生の実習における倫理	講義				
16	終講試験					
評価方法		筆記試験 レポート				
テキスト	専門分野Ⅰ 基礎看護学 看護学概論 看護の基本となるもの 看護覚え書 やさしく学ぶ看護理論			医学書院 日本看護協会出版会 現代社 日総研		

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
基本看護技術Ⅰ (対象把握)	1	30	1	1	教員 (実務経験:病院での看護)
到達目標					
対象を把握する上で、共通する必要な基本的知識・技術を習得できる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 観察 1)観察とは 2)看護における観察の重要性 3)観察の種類 4)観察の方法・実際 (1)直観的・系統的観察法 (2)観察の視点 (3)観察の手段 ・感覚器による観察、言葉による観察 器機・器具による観察:身体計測	講義	・ロールプレイング ・グループワークを通して観察の方法を学ぶ。 【事後学習】 ・他者(同意を得る)を観察しまとめる。観察した内容から自己の観察の視点を振り返る。 【事前学習】 ・血圧計の使い方を練習する。 【夏季休暇中の課題】 ・身近な人にバイタルサイン測定を実施する。		
2	2. バイタルサイン 1)バイタルサイン測定の目的 2)バイタルサイン測定の方法:体温・脈拍・意識 (1)測定の方法 (2)測定時の留意点 (3)測定値の判断	講義			
3	3)バイタルサイン測定の方法:呼吸・血圧 (1)測定の方法 (2)測定時の留意点 (3)測定値の判断	講義			
4	3. バイタルサイン測定の実際 ・呼吸測定 ・血圧測定 ・脈拍測定 ・体温測定	演習			
5					
6	実技試験				
7	4. 看護におけるフィジカルアセスメント 1)フィジカルアセスメントに共通する技術 ・視診・触診・聴診・打診	講義			
8	5. フィジカルアセスメントの方法 1)系統別フィジカルイグザムの方法:呼吸器系 ・胸部ランドマーク	講義 演習			
9	2)系統別フィジカルイグザムの方法:呼吸・循環器系	講義 演習			
10	3)系統別フィジカルイグザムの方法:循環器系	講義 演習			
11	4)系統別フィジカルイグザムの方法:筋・骨格器系 神経系	講義 演習			
12	6. コミュニケーションとは 1)コミュニケーションの特徴 2)コミュニケーションの基本・手段 3)構成要素と成立過程	講義			
13	7. 看護におけるコミュニケーション 1)目的 2)特徴 3)重要性	講義			
14	8. コミュニケーションの実際:事例討議 1)傾聴の技術 2)情報収集の技術 3)説明の技術 4)アサーティブネス	講義 グループ ワーク			
15	9. コミュニケーションの実際	講義 演習			
17	終講試験				
			45分		
評価方法		筆記試験 実技試験(バイタルサイン測定)			
テキスト		専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院			

専門分野Ⅰ：基礎看護学

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
基本看護技術Ⅱ (安全を守る)	1	15	1	1・2	教員 (実務経験: 病院での看護)
到達目標					
対象の安全を守るための必要な基本的知識・技術を習得できる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 安全の概念 1)安全とは 2. 安全を阻害する因子 1)対象者自身の問題 2)医療者自身の問題 3)生活環境や療養環境の場に潜む問題 4)主な事故の発生要因	講義	・安全はすべての看護技術の根底となるため学んだ知識・技術を復習し、基本看護技術・生活援助技術・臨床看護技術を学ぶ上で活用する。 【事前学習】 ・自分の生活環境など身近な事例を用いて安全について考える。 (新聞やニュースなどから情報収集する)		
2	3. 安全を守る技術 1)自ら事故発生要因にならないための行動 2)自ら事故を守る行為	講義	・演習前には技術の原理原則とその根拠について、テキストや動画を活用して学習する。 【事後学習】 ・主な感染経路とその対策についてまとめる。 ・演習後は学習した技術の原理原則を理解し、計画的に技術練習を行う。		
3	4. 感染防止の基礎知識 1)感染の成立と予防 2)感染拡大の防止の対応 3)感染防止の基本 (1)標準予防策(スタンダードプリコーション) (2)感染経路別予防策 (3)個人防護用具(PPE) (4)病原体除去(洗浄、消毒、滅菌) 5. 感染防止の実際(演習): 1時間 1)手指衛生: 衛生的な手洗い (1)流水による手洗い (2)手指消毒	講義 演習	【事前学習】 ・必要な濃度の溶解液を作成するための計算式を確認する。		
4	6. 感染防止の基礎知識 ・消毒法 ・消毒液の計算 7. 無菌操作 1)無菌操作の基礎知識 2)滅菌手袋の装着	講義	45分		
5	8. 無菌操作 1)滅菌物の取り出し方 2)隔離 3)ガウンテクニック 4)感染拡大の防止の対応 5)感染性廃棄物の取り扱い	講義			
6	9. 感染防止の実際(演習) 1)滅菌手袋、プラスチックエプロンの装着、外し方	演習			
7	10. 感染防止の実際(演習) 2)無菌操作	演習			
8	終講試験		45分		
9	実技試験(無菌操作)		45分		
評価方法		筆記試験・実技試験(無菌操作)			
テキスト		専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
基本看護技術Ⅲ (看護過程)	1	30	1	2	教員 (実務経験:病院での看護)
到達目標					
対象の看護上の問題を解決するための思考過程を理解し、看護過程の展開方法を習得できる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 看護過程の意味と位置づけ 1)看護過程の基礎となる考え方 (1)問題解決過程 (2)クリティカルシンキング (3)倫理的判断と価値判断 (4)リフレクション 2)看護過程と看護理論との関係	講義	・日頃、問題が生じた際にどのように解決しているか振り返る。 【事前学習】 ・看護学概論のヘンダーソンの看護理論を学習する。 ・主要概念について自己の考えをまとめる。		
2	2. 看護過程とは 3. 看護過程の構成要素 1)アセスメント 2)看護問題の明確化 3)計画 4)実施 5)評価 4. 看護過程の展開方法	講義			
3	5. 看護過程の実際 1)ヘンダーソンの看護論に基づくアセスメント (1)情報収集	講義 グループ ワーク			
4	2)ヘンダーソンの看護論に基づくアセスメント (1)情報の確認 (2)情報の解釈・分析	講義 グループ ワーク			
5	3)ヘンダーソンの看護論に基づく看護問題の明確化 (1)関連図	講義 グループ ワーク			
6	4)ヘンダーソンの看護論に基づく看護問題の明確化 (1)問題抽出	講義 グループ ワーク			
7	5)ヘンダーソンの看護論に基づく計画の立案 (1)看護目標の設定	講義 グループ ワーク			
8	6)ヘンダーソンの看護論に基づく計画の立案 (1)看護計画の立案	講義 グループ ワーク			
9	7)ヘンダーソンの看護論に基づく実施・評価	講義 グループ ワーク			
10	1. 指導技術の意義と重要性 2. 対象・場所による指導技術 1)発達段階、健康時、健康障害時 2)個別指導 3)集団指導	講義	【事前学習】 ・地域で行われている健康教育に何があるのか調べる。		
11	3. 対象・場所による指導技術 1)個別指導 2)集団指導 3)VTR視聴	講義			
12	4. 効果的な指導の実際 1)指導のプロセス 2)指導技法	講義			
13	5. 健康教育・保健指導の指導案の作成	グループ ワーク			
14		発表			
15	3. 記録 1)記録とは、記録の意義・目的、看護記録の基本的要素 種類:POS、フォーカスチャータリング、記録の様式 2)記録の管理、法的根拠、記録時の留意事項:情報開示含む 4. 報告 1)報告とは、報告の意義と目的、種類、報告時の留意事項	講義	【事前学習】 ・看護学概論の看護師の責務について学習する。 ・看護学生の情報管理についての世間で生じた問題について調べる。		
16	終講試験			45分	
評価方法	筆記試験				
テキスト	専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実際 看護の基本となるもの 看護過程に沿った対応看護 病態生理と看護のポイント 医学書院 ヌーヴェルヒロカワ 日本看護協会出版会 学研				

専門分野Ⅰ：基礎看護学

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
生活援助技術Ⅰ (環境・食生活・排泄)	1	30	1	1・2	教員 (実務経験:病院での看護)
到達目標					
対象の生活行動(環境を整える・食生活・排泄)への援助技術を行う上で必要な知識・技術を習得できる					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 環境調整技術の基礎知識 1)環境とは 2)人間にとって環境の意味 2. 快適な生活環境とは		講義	【事前学習】 ・看護学概論の主要概念の定義について学習する。 ・ナイチンゲール著「看護覚え書」を読み要約する。	
2	3. 健康な生活環境 1)至適環境条件とは 2)生活環境の因子 (1)生理的欲求が満たされる場としての環境 (2)社会生活の欲求が満たされる場としての環境 (3)快適さの個人差 4. 患者にとっての快適な生活環境 1)患者の生活環境の条件 (1)病棟の構造、病室の広さ、プライバシー (2)病室、ベッドの種類、高さなど (3)室内気候、採光、騒音など		講義	【事前学習】 ・自分にとって健康な生活環境についてまとめる。 ・学習環境の温度、湿度等を測定し快適さに関与している条件について考える。	
3	5. 療養環境を整える援助の方法 1)環境整備 2)ベッドメイキング		講義	【事前学習】 ・テキストを活用し環境整備・ベッドメイキングの方法・手順を調べる。 ・臥床患者のシーツ交換の手順・方法について調べる。	
4	6. 療養環境を整える援助の実際 1)ベッドメイキング 2)リネンのたたみ方		演習	【事後学習】 学習した技術の原理原則を理解し、技術練習を行う。	
5	3)臥床患者のシーツ交換		演習		
6	7. 療養環境を整える援助の実際:演習の振り返り		講義	45分	
7	8. 食べるとは 1)食事と栄養の意義 2)食事のメカニズム 3)食行動に影響を与える因子 4)食欲のメカニズム 5)味覚		講義	【事前学習】 解剖生理学Ⅱの消化管の解剖と機能、栄養と消化・吸収機能、嚥下の過程について学習する。	
8	9. 食事と栄養のアセスメント 1)栄養状態のアセスメント (1)観察、計測 (2)指標と検査データ: BMIなど (3)食事摂取基準 2)水分・電解質バランスのアセスメント 3)食欲のアセスメント 4)摂食・嚥下能力のアセスメント 5)摂食行動のアセスメント		講義	・自己の食生活をまとめる。	
9	10. 医療施設で提供される食事の種類と形態 1)特別食 2)食形態 11. 食事行動を整える援助の方法 1)食事摂取の介助 2)事故防止(誤嚥)		講義		
10	12. 食事摂取の援助の実際: 食事介助		演習		
11	13. 自然排尿および自然排便の基礎知識 1)排泄の意義 2)排泄器官の機能と排泄のメカニズム 3)排泄に影響する因子		講義	【事前学習】 ・解剖生理学Ⅱ、Ⅳの食物の消化と糞便の形成、排尿をつかさどる神経、排便をつかさどる神経をまとめる	
12	14. 排泄のアセスメント 1)排尿のアセスメント 2)移動動作のアセスメント 3)心理・社会的状態のアセスメント		講義	・排泄記録(排便・排尿日誌)をつける。 排泄環境 ・各種便器・尿器の目的・用途・特徴についてまとめる。 ・おむつ交換の動画を視聴する。	
13	15. 自然な排泄を促すための援助 1)トイレ 2)ポータブルトイレ 3)床上排泄援助(尿器・便器)・おむつ		講義		
14	16. 排泄の援助の実際(演習) 便器、尿器の挿入、おむつ交換		演習		
15			演習		
16	終講試験			45分	
評価方法		筆記試験			
テキスト		専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
生活援助技術Ⅱ (清潔・衣生活)	1	30	1	1・2	教員 (実務経験:病院での看護)
到達目標					
対象の生活行動(身体の清潔・衣生活)への援助技術を行う上で必要な知識・技術を習得できる。					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 清潔とは 1)清潔の意義、目的 2)皮膚の構造と生理 3)清潔に影響を与える因子(身体面・精神面・社会面)	講義	【事前学習】 ・自己の清潔・衣生活において大事にしていること・価値観をまとめる。 ・解剖生理学のテキストを活用し、皮膚の構造や働きについて調べる。 【事前学習】 解剖生理学Ⅱの身体各部の関節可動域について学習する。 【事前学習】 ・生活援助技術Ⅰ ベッドメイキング、臥床患者のシーツ交換について学習する。 ・各演習前には事前学習の課題あり。技術について原理原則とその根拠について、テキスト・動画を活用しまとめる。 【事後学習】 学習した技術の原理原則を理解し、計画的に技術練習を行う。		
2	2. 衣生活とは 1)衣服を用いることの意義 2)衣服気候 3. 衣服に関するニーズのアセスメント 1)衣類に影響を及ぼす因子	講義			
3	4. 衣服の条件と選択 1)寝衣に求められる条件 2)下着に求められる条件 3)病衣の選び方(病衣の種類: 和式寝具、パジャマなど)	講義			
4	5. 衣生活の援助の方法 1)和式寝衣交換の援助 2)和式寝衣のたたみ方	講義			
5	6. 臥床患者の寝衣交換の実際	演習			
6	7. 全身の清潔法:入浴、シャワー浴、全身清拭 1)援助の種類と適応 2)援助が身体に及ぼす影響 3)入浴、シャワー浴、全身清拭の援助の基礎知識	講義			
7	8. 清潔の援助の実際 : 臥床患者の全身清拭	演習			
8	9. 各部の清潔法:足浴・手浴 1)援助の種類と適応 2)援助が身体に及ぼす影響 3)足浴・手浴の援助の基礎知識	講義 演習			
9	10. 清潔の援助の実際 : 足浴	演習			
10	11. 各部の清潔法:洗髪 1)援助の種類と適応 2)援助が身体に及ぼす影響 3)洗髪の援助の基礎知識	講義 演習			
11	12. 清潔の援助の実際 : 洗髪	演習			
12	13. 各部の清潔法:陰部洗浄 1)援助の種類と適応 2)援助が身体に及ぼす影響 3)陰部洗浄の援助の基礎知識	講義 演習			
13	14. 清潔の援助の実際 : 陰部洗浄	演習			
14	15. 各部の清潔法:口腔ケア・整容 1)援助の種類と適応 2)援助が身体に及ぼす影響 3)口腔ケア・整容の援助の基礎知識	講義 演習			
15	実技試験		45分		
16	終講試験		45分		
評価方法		筆記試験・実技試験(清拭・寝衣交換)			
テキスト		専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
生活援助技術Ⅲ (活動・休息)	1	15	1	1	教員 (実務経験:病院での看護)
到達目標					
対象の生活行動(休息・睡眠・活動・運動・効率的で安楽な動きをつくり出す)への援助技術を行う上で必要な知識・技術を習得することができる。					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 基本的活動の基礎知識 1)活動・運動の意義 (1)活動のメカニズム (2)日常生活動作 (3)活動、運動の効果 2)活動と運動に影響する要因 2. 休息と睡眠 1)休息と睡眠の意義 2)睡眠のメカニズム 3)休息と睡眠に影響を与える要因 4)休息と睡眠を促す援助	講義	【事前学習】 ・解剖生理学Ⅱの骨格・骨格筋・関節運動の構造と機能について学習する。		
2	3. ボディメカニクスの原理と看護実践への活用 1)ボディメカニクスの原理 2)看護動作のポイント:作業姿勢、作業域、作業面の確保 4. 体位 ・水平移動(左右への移動) ・仰臥位から側臥位への移動 ・側臥位から端座位への移動 ・端座位から立位・側臥位からシムス位 5. 安楽な姿勢・体位保持(ポジショニング)	講義	【事前学習】 ・物理学の「力のつりあい」「力のモーメント」と合わせて学習する。		
3	6. 移動の援助 1)移動の意義・目的 2)移動の援助と安全:転倒・転落など 3)援助の方法 (1)車椅子への移動 (2)ベッドからストレッチャーへの移動	講義	【事前学習】 ・解剖生理学Ⅴの自律神経について学習する。 【事前学習】 ・自己の1日(24時間)の生活行動についてまとめ、活動と睡眠に影響していることについて考え提出する。		
4	7. 移動の技術(体位変換) ・水平移動、仰臥位から長座位、長座位から端座位	演習	・「同一体位による身体面・精神面への影響」についてまとめ、提出する。		
5	8. 移動の技術(車椅子への移乗) ・端座位から車椅子への移乗	演習			
6	9. 車椅子、ストレッチャー移送の援助技術 (1)車椅子での移送 (2)ストレッチャーでの移送	講義			
7	10. 車椅子、ストレッチャー移送の実際(演習) ・車椅子の移送 ・ベッドからストレッチャーの移動及び移送 ・スライディングシートを使用した移乗方法	演習	45分		
8	実技試験		45分		
9	終講試験		45分		
評価方法		筆記試験・実技試験(体位変換・車椅子への移動)			
テキスト		専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
臨床看護技術Ⅰ (経過・主要症状)	1	30	1	2	教員 (実務経験:病院での看護)
到達目標					
健康障害をもつ対象の経過および主要症状に応じたニーズを理解し、その援助について習得することができる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 健康状態の経過に基づく看護 ・経過とは 2. 急性期における看護 1)急性期とは 2)急性期の特徴 3)急性期の患者のニーズ	講義	【事後学習】 ・各経過の特徴と経過に応じた看護をまとめる。 45分		
2	3. 回復期における看護 1)回復期とは 2)回復期の特徴 3)回復期の患者のニーズ	講義			
3	4. 慢性期における看護 1)慢性期とは 2)慢性期の経過 3)慢性期の患者のニーズ	講義			
4	5. 終末期における看護 1)終末期とは 2)終末期の特徴 3)終末期の患者のニーズ	講義			
5	6. リハビリテーション期における看護 1)リハビリテーション期とは 2)リハビリテーション期の特徴 3)リハビリテーション期の患者のニーズ	講義			
6	7. 主要症状別看護:疼痛 1)痛みとは 2)痛みの分類とメカニズム 3)痛みの観察とアセスメント 4)痛みをもつ対象への援助 8. 体温の障害 1)発熱のメカニズム 2)体温の観察とアセスメント 3)体温障害を示す対象への援助方法: (1) 安静 (2) 覆法	講義			
8	9. 循環障害 1)循環障害とは 2)浮腫のメカニズム 3)循環障害を示す対象の観察とアセスメント 4)循環障害を示す対象への援助方法	講義			
9	8. 呼吸障害 1)呼吸困難のメカニズム 2)呼吸障害を示す対象の観察とアセスメント 3)呼吸障害を示す対象への援助方法 (1) 気道の確保: 吸引	講義			
10	(2)酸素の供給: 酸素吸入、酸素ポンプの取り扱い	講義			
11	(3)換気の促進: 体位の工夫(スクイーピング) (4)薬剤の投与: ネブライザー吸入	講義			
12	9. 呼吸障害をもつ対象への援助の実際 ・吸引(口腔、鼻腔)、酸素吸入、酸素ポンプの取り扱い	演習	【事前学習】 ・解剖生理学Ⅳの排泄に関連する内容、生活援助技術Ⅰの自然排泄について、基本看護技術Ⅱの清潔操作について学習する。 ・一時的導尿の動画を視聴する。 45分		
13	10. 排泄障害 1)排便障害のメカニズム: 便秘、下痢 2)排尿障害のメカニズム: 尿閉 3)排泄障害を示す対象の観察とアセスメント	講義			
14	11. 排泄障害を示す対象への援助方法 1) 浣腸: グリセリン浣腸、石炭浣腸 2) 導尿: 一時的導尿、膀胱留置カテーテル	講義			
15	12. 排泄障害を示す対象への援助の実際: 一時的導尿	演習			
16					
17	終講試験				
評価方法		筆記試験			
テキスト	専門分野Ⅰ 専門分野Ⅱ	基礎看護学 成人看護学	臨床看護総論 成人看護学総論	医学書院 医学書院	

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
臨床看護技術Ⅱ (治療・処置)	1	30	1	2	教員 (実務経験:病院での看護) 院内講師
到達目標					
健康障害をもつ対象の治療・処置に伴うニーズを理解し、その援助を習得することができる。					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 手術療法 1)手術療法とは 2)手術療法が及ぼす身体への影響 3)手術療法の過程:手術前・手術中・手術後	講義	【事後学習】 ・麻酔をかけることによる身体の変化(麻酔が身体に及ぼす影響)についてまとめる		
2	2. 手術療法を受ける対象の特徴 1)手術前 2)手術中 3)手術後 3. 手術療法を受ける対象への援助方法 1)手術前 2)手術中 3)手術後	講義			
3	4. 麻酔とは 1)麻酔の種類 2)麻酔が及ぼす身体への影響	講義			
4	1. 放射線療法 1)放射線療法とは 2)放射線の種類 3)放射線の作用 4)放射線の性質 5)放射線同位元素 2. 放射線が人体に及ぼす影響 1)放射線に対する感受性 2)放射線障害 3)放射線宿酔 3. 照射方法 1)対外照射療法 2)密封小線源療法 3)非密封小線源療法 4. 放射線療法を受ける対象の援助 1)レントゲン、CT、MRI 5. 放射線防御と看護管理 1)被爆防護の原則 2)健康管理	講義	【事後学習】 ・被爆の3原則についてまとめる。		
5	1. 救急法 1)救急法とは 2. 救急状況にある対象のニーズ 1)身体的特徴 2)心理的特徴 3)社会的特徴 3. 救急状況にある対象の援助 1)対象の状態把握 2)救命救急処置:一次救命処置、二次救命処置 3)救命処置の方法:心肺蘇生法、止血法 4)家族への援助 4. 救命処置の実際:心肺蘇生法(演習)	講義 演習	【事前学習】 ・AEDが設置されている場所を調べる。		
6	1. 検査 1)検査とは 2)検査の意義・目的 3)検査の種類:検体検査、生体検査 2. 検査を受ける対象の援助 1)検査における看護師の役割 2)生体検査の援助 (1)生理機能検査:呼吸機能検査・心電図検査 (2)画像診断検査:X線検査・CT・造影検査 MRI・内視鏡 (3)超音波検査・核医学検査	講義			

時	授業内容	方法	備考
7	3. 検査を受ける対象の援助 1) 検体検査の援助 (1) 検体の取り扱い: 尿・便・喀痰・穿刺液 (2) 検体の採取: 採尿法、骨髓穿刺、腰椎穿刺、胸腔穿刺	講義	
8	1) 検体検査の援助 (1) 検体の取り扱い: 血液 (2) 検体の採取: 採血法	講義 演習	
9	4. 検体検査の援助の実際: 採血法		
10	1. 薬物療法 1) 薬物療法とは 2) 薬物療法の目的・意義 3) 薬物の作用・吸収過程 2. 薬物の投与経路の種類と適応 3. 与薬における看護師の役割 1) 正しい与薬 6R 2) 薬物療法中の対象のニーズの把握と充足のための援助	講義	【事前学習】 ・薬物の作用・吸収過程について、薬理学と関連づけて学習する。 ・皮膚の組織・血管の走行についてまとめる。
11	4. 各与薬法の援助方法 1) 経口与薬法 2) 直腸内与薬法 3) 塗布・塗擦法 4) 点眼・点鼻 5) 吸入	講義	【事後学習】 ・輸液療法を受ける対象の、日常生活行動への影響と援助についてまとめる。
12	5. 各与薬法の援助方法 1) 注射法 (1) 注射法の種類: 皮下・皮内注射・筋肉・静脈注射 (2) 注射器具の取り扱い (3) 薬液の準備(アンプル・バイアル)	講義	
13	6. 輸液療法 1) 輸液療法とは 2) 輸液療法の目的・意義 3) 輸液の種類と特徴 7. 輸液療法を受ける対象への援助 1) 看護師の役割 2) 点滴静脈内注射の方法 (1) 物品の構造と取り扱い (2) バイアルのミキシング (3) 輸液セットの準備と接続 (4) 滴下数の調節 (5) 輸液中の観察 (6) 注射針の刺入・固定	講義	
14	8. 点滴静脈内注射の準備 1) 6R、注射器 2) 注射針の取り扱い 3) バイアルのミキシング 4) 輸液セットの準備と接続 5) 滴下数の調整 6) 針刺し防止対策	演習	
15	9. 筋肉内注射 1) 6R、注射器 2) 注射針の取り扱い 3) アンプルからの薬液吸い上げ 4) 筋肉内注射	演習	
16	実技試験		45分
17	終講試験		45分
評価方法		筆記試験 実技試験(アンプルのミキシング・輸液セットの準備)	
テキスト		専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 専門分野Ⅰ 基礎看護学 臨床看護総論 医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院	

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
看護研究の基礎	1	30	2	2	山下 亜紀子 教育主事 (実務経験: 病院での看護)
到達目標					
看護研究に関する基礎的知識を理解し、対象を総合的に捉え、看護過程を系統立てて実施することで問題解決への能力を養い、看護に必要な研究的態度を身につけることができる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 看護研究の意味と研究倫理 1) 研究の意味 (1) 研究とは何か (2) 看護研究 (3) 看護専門職と看護研究 (4) 看護研究と倫理的配慮 2. 研究計画立案過程 1) 研究テーマ発見の仕方: (1) 問題の発見	講義	担当: 山下 亜紀子		
2	2. 研究計画立案過程 1) 研究計画書の立て方: (1) 研究計画立案までのプロセス 2) データ収集、データの分析	講義			
3	3. 論文作成過程 1) 論文の作成 4. 論文のクリティーク 1) 研究テーマの明確化 2) 論文検索と論文クリティーク	講義	研究テーマの明確化から文献検索と論文クリティーク、さらに研究計画書の作成について、演習を通して学習する		
4	4. 文献検索・検討 5. 文献クリティークの方法	演習			
5	6. 論文のクリティーク(演習)	個人ワーク	担当教員に指導を受け、一事例をまとめ発表する		
6	7. 論文のクリティーク(演習)	個人ワーク	発表時に他者講評を受ける		
7	8. 看護研究計画書作成	グループワーク			
8	9. ケーススタディとは 1) ケーススタディの定義 2) ケーススタディの目的 3) 看護学生がケーススタディをまとめる意義 4) ケーススタディの限界と考慮点 10. 看護実践からケーススタディ 1) 患者の見方	講義	担当: 教育主事 【事後学習】 ・学会誌等を参考に、どのようなテーマ・内容で事例研究がされているか、論文の構成を学習する。 ・実習中に文献検索を行い、文献を参考に実践を行う。		
9	2) 記録の実際 3) ケーススタディの実際 4) ケーススタディの過程と行うにあたっての原則	講義			
10	11. ケーススタディ計画書 12. まとめ方と発表	講義			
11	ケーススタディクリティーク	演習			
12	ケーススタディクリティーク	発表			
13	ケーススタディ研究計画書の作成	演習			
14	ケーススタディ計画書指導・論文の作成	演習			
15	ケーススタディ計画書指導・論文の作成	演習			
評価方法	レポート・グループワーク課題・クリティーク・ケーススタディ計画書				
テキスト	黒田裕子の看護研究 step by step 医学書院 わかりやすいケーススタディの進め方 照林社				

専門分野Ⅱ：「成人看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
成人看護学概論	1	15	1	2	教育主事 (実務経験: 病院での成人看護)
到達目標					
ライフサイクルの中で、成人期にある人の身体的・心理的・社会的変化と、健康における現状と諸問題を理解し、成人看護の基本について理解する					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 成人看護の意義 1) ライフサイクルから見た成人期の位置づけ 成人期の区分と各発達段階と発達課題 2. 成人看護の対象の理解 1) 障害発達の特徴 成人期 各期の特徴(身体・心理・社会的な特徴)	講義	・成人の生涯発達の特徴を心理・社会的な発達と身体的な発達がどのように関係しているのか考える。		
2	2) 成人期の人々の生活・暮らし・人生(仕事・家族)	講義			
3	3. 成人期の生活と健康 1) 成人をとりまく環境と生活状況 2) 成人のライフスタイルの特徴 3) 成人の健康の状況 生活習慣病	講義			
4	4. 成人期の健康維持増進・疾病予防にむけた看護の機能と役割 1) 健康維持増進・生活習慣病対策等の保健・医療・福祉システムの概要 2) ヘルスプロモーションと看護	講義			
5	3) 大人の健康行動 大人の学習 学習に基づく行動形成 生活習慣病の予防と健康教育	講義			
6	5. 成人の特性や能力に応じたアプローチ 1) セルフケア行動形成へのアプローチ	講義			
7	2) 意思決定支援 3) 危機状況にある対象へのアプローチ	講義			
8	終講試験				
評価方法		筆記試験			
テキスト		専門分野Ⅱ 成人看護学 成人看護学総論 医学書院			

専門分野Ⅱ：「成人看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
成人臨床看護Ⅰ(急性期)	1	30	2	1	教員 (実務経験:病院での成人看護)
到達目標					
急性期にある成人期の対象に対する看護実践のための基礎的知識・技術を学び、発達段階・経過に応じた看護を理解する					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 急性期にある対象と家族への看護 (身体的・心理的・社会的特徴、クリティカルケア、急性期患者の家族看護、危機理論) 2. 急性心筋梗塞の原因と障害の程度のアセスメントと看護	講義	・看護過程の展開 迅速な観察と適切な判断・対応について、解剖生理・病態生理、検査データと関連付けて学習する。 【事前学習】 ・解剖生理学Ⅲ(循環器系)・病態学Ⅰ(循環器系)の解剖と機能 ・急性心筋梗塞、徐脈性不整脈の病態と症状、機能障害のメカニズム、検査、治療を学習する。 45分 【事前学習】 ・解剖生理学Ⅰ(血液造血器系)・病態学Ⅰ(血液造血器系)の血液成分と機能・造血・止血機構の解剖と機能、白血病の病態と症状 ・機能障害のメカニズム、検査、治療を学習する。 45分		
2	3. 心筋梗塞の検査、治療を受ける患者への看護 (心電図、血管造影、心臓カテーテル、経皮的冠動脈形成術、冠動脈バイパス術 等) 4. 心筋リハビリテーションについて	講義			
3	5. 病期や機能障害に応じた看護(虚血性心疾患) 6. 急性心筋梗塞患者事例による看護過程の展開 1)対象の状態のアセスメント 2)関連図、看護問題の抽出 3)関連図、看護問題の抽出、看護計画の立案	講義 グループワーク			
4		グループワーク			
5		講義 グループワーク			
6	7. 病期や機能障害に応じた看護(虚血性心疾患) 8. 急性心筋梗塞患者事例による看護過程の展開 ・まとめ	講義			
7	9. ペースメーカー治療を受ける患者の看護 1)病態生理、適応基準	講義			
8	2)ペースメーカー挿入が及ぼす影響	講義			
9	3)生活に及ぼす影響と合併症予防の看護	講義 グループワーク			
10	4)日常生活における留意点	講義			
11	10. 血液悪性疾患の病期や機能障害に応じた看護 1)白血病の原因と障害の程度のアセスメントと看護	講義			
12	2)検査・処置、治療を受ける患者への看護 (1)骨髄穿刺、造血幹細胞移植	講義			
13	3)急性骨髄性白血病患者の看護	講義			
14	11. 熱傷の対象への看護 1)障害の程度のアセスメントと看護	講義			
15	2)一般的な治療・検査、看護:植皮術 3)合併症予防の看護	講義			
16	終講試験				
評価方法	筆記試験				
テキスト	専門分野Ⅱ 専門分野Ⅱ 専門分野Ⅱ	成人看護学 成人看護学 成人看護学	循環器 皮膚 血液・造血器	医学書院 医学書院 医学書院	

専門分野Ⅱ：「成人看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
成人臨床看護Ⅱ (周手術期)	1	30	2	1	教員 (実務経験:病院での成人看護) 院内講師(看護師)
到達目標					
手術を受ける成人期の対象に対する看護実践のための基礎的知識・技術を学び、発達段階・経過に応じた看護を理解する					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 胃がんの手術を受ける患者への看護 (病態生理と症状の関連性、原因・予後・看護) 1)術前の看護(手術療法の理解を促す援助、意思決定支援、術前オリエンテーション、不安のアセスメント)	講義 DVD	担当:教員 【事前学習】 ・解剖生理学Ⅱ(消化器系)・病態学Ⅳ(消化器系)の胃の解剖と機能、胃がん、乳がん、大腸がんの病態と症状、機能障害のメカニズム、検査、治療について学習する。 ・臨床看護技術Ⅱ(治療・処置)の手術療法について学習する。 ・看護過程の展開 手術・麻酔侵襲や生体反応から術後に必要な観察・アセスメントについて学ぶ。 45分		
2	2)術中の看護(手術による身体機能変化、手術体位・麻酔による影響と援助、リスクマネジメント)	講義 DVD			
3	3)術後の看護(術後合併症と予防、術後出血、呼吸器合併症、深部静脈血栓症、感染症、疼痛管理、イレウス、ダンピング症候群)	講義 DVD			
4		講義			
5	4)胃切除術を受けた患者の生活上の留意点、社会復帰について	講義			
6	5)胃切除術後の合併症と予防 ・胃切除術を受けた患者の術後1日目の観察およびアセスメント	グループワーク			
7		グループワーク 発表			
8		グループワーク 講義			
9	2. 乳がんの手術を受ける患者への看護 (病態生理と症状の関連、原因、予後、看護の必要性) 1)臓器摘出による機能低下に伴う生活変化に適応するための援助 2)乳房摘出後の生活への影響・留意点 3)大腸がんの手術を受ける患者への看護 4)臓器摘出による機能低下に伴う生活変化に適応するための援助 (ボディイメージの変化に対する看護技術、形態変化や機能障害に対する適応への援助)	講義			
10		講義			
11	3. 創傷管理・ドレーン管理・CV管理 ・創傷とは ・創傷の治癒過程 ・創傷処置 ・創傷治癒に影響を与える因子 ・手術部位感染 ・ドレーン管理 ・CV管理	講義			
12	4. 化学療法を受ける患者の看護 1)化学療法の基礎知識 2)化学療法を受ける患者の日常生活への影響	講義			
13	3)化学療法の副作用に対する看護	講義			
14	5. 放射線療法を受ける患者の看護 1)放射線療法の基礎知識	講義			
15	2)有害事象の理解と看護	講義			
16	終講試験				
評価方法		筆記試験			
テキスト		専門分野Ⅱ 成人看護学 消化器 専門分野Ⅱ 成人看護学 女性生殖器 高齢者と成人の周手術期看護1～3 成人看護学 周手術期看護論 医学書院 医学書院 医歯薬出版 ヌーヴェルヒロカワ			

専門分野Ⅱ：「成人看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
成人臨床看護Ⅲ(回復期)	1	30	2	1	教員 (実務経験:病院での成人看護) 院内講師(看護師)
到達目標					
回復期にある成人期の対象と家族に対する看護実践のための基礎的知識・技術を学び、発達段階・経過に応じた看護を理解する					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 成人回復期にある患者の特徴と看護の役割 (リハビリテーションの定義と看護の役割、機能障害と分類)	講義	担当:院内講師		
2	2. くも膜下出血患者の看護 1)原因と障害の程度のアセスメント 2)検査・処置、治療を受ける患者への看護 血管内治療、脳室ドレナージ、開頭術 等	講義	【事前学習】 ・臨床看護技術Ⅰ(経過)の回復期・リハビリテーション期の学習をする。 【事前学習】 ・解剖生理学Ⅴ・病態学Ⅲの脳神経系の解剖と機能、脳卒中、脳腫瘍の病態と症状、機能障害のメカニズム、検査、治療を学習する。		
3	3)合併症、二次障害の予防と回復の促進に向けた看護	グループワーク	・事例から看護上の問題点を抽出し、看護計画を立案する。		
4		グループワーク発表			
5	4. 脳腫瘍患者の看護 1)原因と障害の程度のアセスメント 2)検査・処置、治療を受ける患者への看護 放射線療法、ガンマナイフ治療、手術療法 等	講義	45分 担当:教員 【事前学習】 ・解剖生理学Ⅱ(筋骨格器系)、病態学Ⅲ(運動器系)の筋骨格器系の解剖と機能、椎間板ヘルニア、脊髄損傷の病態と症状、機能障害のメカニズム、検査、治療を学習する。		
6	5. 脳梗塞患者の看護 1)原因と障害の程度のアセスメント 2)検査・処置、治療を受ける患者への看護 画像検査、rt-PA 等	講義			
7	6. 病期や機能障害に応じた看護 1)脳梗塞患者事例による看護過程の展開 ・機能障害(意識障害、運動麻痺、言語障害等)に応じた看護	グループワーク			
8		グループワーク発表			
9	7. 障害の受容過程と援助 ・言語障害をもつ対象とのコミュニケーションと援助 ・日常生活行動の再獲得を支援する援助	講義			
10	成人期にある脳神経系疾患患者の回復期看護のまとめ	講義			
11	8. 椎間板ヘルニア患者の看護 1)原因と障害の程度のアセスメント 2)検査・処置、治療を受ける患者への看護 脊髄造影・椎間板造影 等	講義			
12	3)牽引を受ける患者の看護 4)手術療法を受ける患者の看護	講義			
13	5)回復期にある患者とその家族に対する身体的、精神的援助	グループワーク			
14	9. 脊髄損傷患者の看護(外傷に伴う脊髄疾患) 1)原因と障害の程度のアセスメント 2)検査・処置、治療を受ける患者への看護	講義 グループワーク			
15	3)障害の受容過程と援助	グループワーク 講義			
16	終講試験		45分		
評価方法		筆記試験			
テキスト	専門分野Ⅱ 専門分野Ⅱ	成人看護学 成人看護学	脳・神経 運動器	医学書院 医学書院	

専門分野Ⅱ：「成人看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
成人臨床看護Ⅳ(慢性期)	1	30	2	2	教員 (実務経験:病院での成人看護) 院内講師(看護師)
到達目標					
慢性期にある成人期の対象と家族に対する看護実践のための基礎的知識・技術を学び、発達段階・経過に応じた看護を理解する					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 慢性期の特徴、慢性期患者の理解 1)糖尿病の原因と障害の程度のアセスメントと看護	講義	担当:教員 【事前学習】 ・臨床看護技術Ⅰ(経過)の慢性期について学習する。 【事前学習】 ・解剖生理学Ⅴ、病態学Ⅳの内分泌系の解剖と機能、糖尿病と甲状腺機能亢進症の病態と症状、機能障害のメカニズム、検査、治療を学習する。		
2	2)糖尿病の病態と症状の関連性、生活への影響	講義 グループワーク			
3	2. 成人慢性期の患者とその家族に対する身体的、精神的援助	講義			
4	3. 糖尿病治療を受ける患者への看護 1)食事療法・運動療法・薬物療法(糖尿病経口薬)	講義			
5	2)インスリン補充療法(皮下注射)の指導	講義 演習			
6	4. 検査・処置を受ける患者への看護 ・簡易式血糖自己測定(SMBG)	講義 演習			
7	5. 病期や機能障害に応じた看護 1)糖尿病をもつ成人期の対象への生活指導の実際 ・コンプライアンスを高めるための援助	グループワーク			
8	2)セルフケア確立に向けた教育・指導 ・糖尿病をもつ成人期の対象への生活指導の実際	演習			
9	6. 甲状腺機能亢進症患者の看護 1)原因と障害の程度のアセスメント 2)検査・処置、治療を受ける患者への看護 (1)ホルモン血中・尿中濃度測定、甲状腺切除術 等	講義			
10	(2)生活上の留意点	講義			
11	7. 医療機器と共に生活しなければならない対象の看護 1)腎不全患者の看護 ・透析	講義	担当:院内講師 【事前学習】 ・解剖生理学Ⅲ、Ⅳ、病態学Ⅰ、Ⅱの呼吸器系と腎臓系、免疫系の解剖と機能、腎不全、慢性閉塞性肺疾患、AIDSの病態と症状、機能障害のメカニズム、検査、治療について学習する。		
12	8. 透析導入をする腎不全患者への看護	グループワーク			
13	9. 医療機器と共に生活しなければならない対象の看護 1)慢性閉塞性肺疾患患者 ・在宅酸素療法、呼吸管理、NPPV	講義			
14	10. 死の潜在的恐怖と共に生活する対象の看護 ・AIDS患者の看護	講義	担当:院内講師		
15	11. 治療を受ける患者への看護 ・抗ヒト免疫不全ウイルス(HIV)療法	講義			
16	終講試験		45分		
評価方法		筆記試験			
テキスト	専門分野Ⅱ 成人看護学 専門分野Ⅱ 成人看護学 専門分野Ⅱ 成人看護学 専門分野Ⅱ 成人看護学 看護過程に沿った対症看護	呼吸器 腎・泌尿器 内分泌 代謝 アレルギー 膠原病 感染症 病態生理と看護のポイント	医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 学研		

専門分野Ⅱ：「成人看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
成人臨床看護Ⅴ(終末期)	1	30	2	2	院内講師(看護師)
到達目標					
終末期にある成人期の対象と家族に対する看護実践のための基礎的知識・技術を学び、発達段階・経過に応じた看護を理解する					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 終末期の特徴、終末期患者の理解 1)緩和ケアを必要とする患者への看護 ・肝臓癌・肝硬変の患者の看護	講義	担当:院内講師 【事前学習】 ・臨床看護技術Ⅰ(経過)の終末期の学習をする。 45分 【事前学習】 ・解剖生理学Ⅱの消化器系の解剖と機能、肝硬変、肝臓癌の病態と症状、機能障害のメカニズム、検査、治療について学習する。 ・死を迎えつつある対象への看護師としての姿勢について考える。		
2	2. 肝臓がん・肝硬変の検査治療を受ける患者の看護 ・検査(超音波検査、CT)・治療(静脈瘤硬化療法、TAE)と看護	講義			
3	3. 症状アセスメントとマネジメント ・腹水、浮腫のある患者への看護 ・黄疸のある患者への看護 ・肝性昏睡のある患者の看護	グループワーク			
4		グループワーク			
5		グループワーク発表			
6	4. エンド・オブ・ライフ・ケア 1)全人的苦痛のアセスメントとマネジメント 2)苦痛緩和と意思決定支援	講義			
7	5. 終末期にある患者の看護 1)アドバンスケアプランニング 2)予期的悲嘆に対するアセスメントとケア	講義			
8	6. 成人期にある対象の全人的苦痛の緩和への援助 1)身体的苦痛:がん性疼痛(身体的ケア)	講義			
9	2)症状マネジメント	講義			
10	7. 死に対する患者家族の悲嘆への援助 1)予期悲嘆、デス・エデュケーション、グリーフケア(精神的ケア)	講義			
11	8. がん患者の抱える苦痛(肺がん) 1)転移・浸潤による身体的・心理的苦痛 2)慢性呼吸不全	講義			
12	9. 症状アセスメントとマネジメント(肺がん・呼吸不全) 1)慢性呼吸不全のある患者への看護	講義			
13	10. 緩和ケアを必要とする患者と家族への看護	講義			
14	11. 肺がんで慢性呼吸不全のある患者への看護の実際 ・全人的苦痛のアセスメントとマネジメント	グループワーク			
15		グループワーク発表			
16	終講試験				
評価方法		筆記試験			
テキスト	専門分野Ⅰ 専門分野Ⅱ 専門分野Ⅱ 専門分野Ⅱ	基礎看護学 成人看護学 成人看護学 成人看護学	臨床看護総論 成人看護学総論 呼吸器 消化器	医学書院 医学書院 医学書院 医学書院	

専門分野Ⅱ：「老年看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
老年看護学概論	1	15	1	2	教員 (実務経験:病院での看護)
到達目標					
ライフサイクルの中で老年期にある人の身体的・心理的・社会的変化と高齢者の看護の基本について理解できる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 老年期の対象 1)高齢者の定義 2)「老いのイメージ」 2. 加齢と老化 1)加齢・老化の概念	講義	【事後学習】 ・老年期にある対象の3側面の特徴を整理する。 ・老人福祉センターのサークル活動に参加し、老年期の方と共に過ごす体験をする。 ・体験したことを老年期の特徴や発達課題と結びつけながら「老い」を考える。 45分		
2	2. 加齢と老化 1)加齢に伴う身体的側面の変化 2)加齢に伴う心理的側面の変化 3)加齢に伴う社会的側面の変化	講義			
3	3. 高齢者の発達と成熟 1)老年期の発達課題 4. 高齢者の健康 1)高齢者の健康の特徴 2)生理的老化と病的老化 3)高齢者の疾病の特徴 4)フレイル・サルコペニア	講義			
4	5. 老年看護の対象:老人福祉センター 演習	演習			
5	6. わたしたちの高齢者観	グループワーク 発表			
6	7. 老年看護の倫理 1)高齢者の権利擁護(アドボカシー) 2)高齢者の人権に関する制度 3)高齢者虐待 4)安全確保と身体拘束 5)高齢者の意思決定への支援(アドバンスケアプランニング) 6)終末期における生き方や死の迎え方の意向	講義			
7	8. 老年看護の特徴	講義			
8	終講試験				
評価方法		筆記試験			
テキスト		専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院			

専門分野Ⅱ：「老年看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
老年保健	1	30	2	1	教員 (実務経験:病院での看護)
到達目標					
老年保健における統計、施策について学び、高齢者を取り巻く社会制度について理解できる 高齢者の生活を支える看護が理解できる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 高齢社会と社会保障 1)超高齢社会の統計的輪郭	講義	・自治体が発行する保健医療福祉に関する資料、自治体HPの統計資料を読み、自治体の高齢者を取り巻く現状を理解する。 45分 【事前学習】 ・基本看護技術、生活援助技術で学んだ基礎看護技術を学習する。		
2	1. 高齢社会と社会保障 2)高齢社会における保健医療福祉の動向 (1)保健医療福祉制度の変遷 (2)高齢者医療のしくみ ①介護保険制度 ②高齢者を支える多職種連携(チームアプローチ)	講義			
3	2. 高齢者疑似体験	演習 グループワーク			
4					
5	高齢者体験から学んだこと ・疑似体験したことで高齢者に対する認識の変化 ・高齢者の日常生活援助における環境調整や生活の工夫	グループワーク 発表			
6	3. 高齢者の生活を支える看護(ヘルスアセスメント) 1)高齢者の運動機能の変化 2)高齢者の機能と評価 3)高齢者の日常生活動作のアセスメント	講義			
7	4. 高齢者の生活を支える看護(コミュニケーション) 1)加齢に伴う視聴覚機能の変化 2)コミュニケーションを促す要素と阻害要因 3)高齢者とのコミュニケーション方法	講義			
8	5. 高齢者の生活を支える看護(生活リズム) 1)高齢者の生活リズムを調整する意義 2)加齢による睡眠の特徴と睡眠障害の要因 3)睡眠障害のアセスメント 4)睡眠障害を有する高齢者への援助	講義			
9	6. 高齢者の生活を支える看護(廃用症候群) 1)加齢に伴う廃用症候群の病態と要因 2)廃用症候群のためのアセスメント 3)廃用症候群の予防に向けた援助	講義			
10	7. 高齢者の生活を支える看護(食事・食生活) 1)高齢者における食事の意義 2)食事に関する高齢者に特徴的な変調 3)食生活のアセスメント 4)高齢者の嚥下能力・嗜好性・環境に応じた食生活への援助 5)義歯の取り扱い	講義			
11	8. 高齢者の生活を支える看護(排泄) 1)高齢者の排泄ケアの基本 2)加齢に伴う排泄機能(排尿)の変化 3)排尿・排便に関するアセスメント 4)高齢者の排尿・排便障害 5)排泄能力に応じた援助	講義			
12	9. 高齢者の生活を支える看護(清潔・衣生活) 1)高齢者に生じやすい清潔に関する健康課題(皮膚障害・セルフケア能力の変化) 2)清潔のアセスメント 3)負担に応じた清潔・衣生活の援助	講義			
13	10. 高齢者の生活を支える看護(セクシュアリティ) 1)高齢者のセクシュアリティ 2)性機能の加齢性変化 3)セクシュアリティのアセスメントと看護	講義			
14	11. 高齢者の生活を支える看護(社会参加) 1)社会参加の意義 2)地域における高齢者の社会参加	講義			
15	12. エンド・オブ・ライフ・ケア 1)エンド・オブ・ライフ・ケアの概念 2)身体徴候のアセスメントと看護 3)苦痛緩和と安楽、精神的苦痛や混乱に対する援助 4)末期段階に求められる援助 5)グリーフケア	講義			
16	終講試験		45分		
評価方法		筆記試験			
テキスト		専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院			

専門分野Ⅱ：「老年看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
老年臨床看護	1	30	2	1	石川 雅裕 院内講師(看護師)
到達目標					
健康障害をもつ高齢者とその家族に対する看護実践のための基礎的知識・技術が理解できる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 高齢者の疾患の特徴(認知症) 1)認知症の概念 2)認知症の症状(認知機能障害・BPSD) 3)診断に必要な検査	講義	担当:石川 雅裕		
2	4)4大認知症 (1)認知症の治療	講義			
3	2. 高齢者の疾患の特徴(パーキンソン病) 1)パーキンソン病の症状 2)診断に必要な検査 3)治療	講義			
4	3. 高齢者にみられる神経難病(筋萎縮性側索硬化症・脊髄小脳変性症) 1)症状 2)診断に必要な検査 3)治療	講義			
5	4. 高齢者にみられる神経難病(重症筋無力症・多発性硬化症) 1)重症筋無力症・多発性硬化症の症状 2)診断に必要な検査 3)治療	講義			
6	5. 検査・治療を受ける高齢者の看護 1)検査を受ける高齢者の看護 2)薬物療法を受ける高齢者の看護 (1)加齢に伴う薬物動態の変化 (2)服薬管理能力のアセスメントと看護	講義			
7	6. 恒常性維持機能の低下した高齢者の看護 1)脱水症・熱中症の高齢者の看護 (1)脱水症・熱中症の成因と分類 (2)脱水症・熱中症の治療と看護	講義	担当:院内講師		
8	7. 感染症の高齢者の看護 1)加齢による疾患の特徴と要因 (1)肺炎 (2)感染性胃腸炎 (3)インフルエンザ 2)症状と生活への影響のアセスメント 3)予防・治療と援助	講義			
9	8. せん妄のある高齢者の看護 1)せん妄の病態と要因 2)せん妄のアセスメント 3)せん妄予防のための援助 4)せん妄発生時の治療と援助	講義			
10	9. うつ状態の高齢者の看護 1)加齢による疾患の特徴と要因 2)うつ症状と生活への影響のアセスメント 3)予防・治療と援助	講義			
11	10. 皮膚機能が低下した高齢者の看護 1)加齢による掻痒感の病態と要因 2)掻痒感に対する看護 3)掻痒感と生活への影響のアセスメント 4)予防・治療と援助	講義			
12	11. 高齢者における疾患の看護(認知症) 1)認知症高齢者とのコミュニケーション方法と療養環境の整備	講義			
13	2)急性期一般病床での援助 3)家族への支援とサポートシステム	講義			
14	12. 高齢者における疾患の看護(パーキンソン病) 1)パーキンソン症状と生活への影響とアセスメント 2)症状コントロールに向けた援助	講義			
15	終講試験		45分		
評価方法		筆記試験			
テキスト	専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 専門分野Ⅱ 成人看護学 脳・神経 医学書院				

専門分野Ⅱ：「老年看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
老年看護学演習	1	30	2	2	教員 (実務経験: 病院での看護)
到達目標					
老年看護学概論、老年保健、老年臨床看護で学んだ知識を統合し、生活機能の観点からアセスメントし、健康のレベルに応じた高齢者への援助方法が理解できる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 大腿骨頸部骨折の要因と身体的影響 1) 加齢による疾患の特徴と要因 2. 大腿骨頸部骨折の治療と看護(牽引療法・手術療法)	講義	【事前学習】 ・病態学Ⅲ大腿骨頸部骨折の病態・治療について学習する。 ・成人臨床看護Ⅱの術前・術中・術後の看護についてを学習する。		
2	3. 大腿骨頸部骨折を起こした高齢者の事例展開 1) 直達牽引療法を受けている高齢者の情報収集とアセスメント	グループワーク			
3	2) 直達牽引療法を受けている高齢者の看護問題抽出	グループワーク			
4	3) 手術療法を受ける高齢者の看護 (1) 入院時の看護 (2) 外来診療時の看護 (3) 検査時の看護 (4) 手術療法時の看護	講義			
5	4) 術後の高齢者の看護問題の抽出	グループワーク			
6	5) 回復を促進するための看護計画立案 (1) 生活の再構築に向けた援助 (2) 転倒・転落の予防	グループワーク			
7	6) 回復を促進するための看護の実践・評価	演習			
8	4. エンド・オブ・ライフ・ケア 1) 身体徴候とアセスメントと援助 2) 身体的苦痛の緩和と安楽への援助 3) 精神的苦痛や混乱に対する援助 4) 臨死期の評価と援助 5) 家族看護	講義	【事前学習】 ・老年保健のエンド・オブ・ライフ・ケアについて学習する。 ・高齢者の意思決定支援について学習する。		
9	5. エンド・オブ・ライフ・ケアの実践	講義			
10	1) 高齢者の尊厳を守る支援 事例検討: 高齢者の意思決定支援	グループワーク			
11	6. 高齢者と医療安全 1) 高齢者と医療事故 2) 熱傷 3) チューブ類の事故	講義			
12	4) 皮膚損傷 同一体位・ずれの体験、体圧測定、ポジショニングの実践	講義 演習			
13	7. 高齢者の個別の日常生活能力、目標に合わせた援助 1) 呼吸困難がある高齢者の看護 2) 高齢者への生活指導	講義 グループワーク			
14					
15					
16	終講試験		45分		
評価方法		筆記試験			
テキスト	専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 高齢者と成人の周手術期看護1、2 医歯薬出版 成人看護学 周手術期看護論 ヌーヴェルヒロカワ				

専門分野Ⅱ：「小児看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
小児看護学概論	1	15	2	1	教員 (実務経験:病院での小児看護)
到達目標					
小児期の成長・発達について学び、小児各期における身体的・心理的・社会的特徴を理解することができる。小児に関する統計・諸問題について理解することができる。					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 小児看護の特徴と理念 1)小児看護の目ざすところ 2)小児看護の変遷	講義 グループワーク	・グループワーク 「子ども」のイメージについて		
2	3)小児と家族の諸統計 4)小児看護における倫理 5)小児看護の課題	講義 グループワーク	【事前学習】 ・新聞等から子どもの医療事故について情報を集める。		
3	2. 子どもの成長・発達 1)成長・発達とは 2)成長発達の進み方 3)成長発達に影響する因子 4)成長・発達の評価	講義	【事前学習】 ・母子手帳を活用し、自身の小児期の成長・発達状況について振り返る。		
4	3. 子どもの栄養 1)子どもにとっての栄養の意義 2)子どもと食育 3)食事摂取基準 4)発達段階別子どもの栄養と看護	講義			
5	4. 新生児・乳児の形態的・身体生理の特徴、養護および看護	講義			
6	5. 幼児・学童の形態的・身体生理の特徴、養護および看護 6. 思春期・青年期の形態的・身体生理の特徴、養護および看護	講義			
7	7. 子どもと家族を取り巻く社会 1)小児を取り巻く法律と政策 2)児童福祉 3)子どもの虐待 4)いじめ・校内暴力の防止	講義	【事前学習】 ・それぞれの都道府県において、子どものための施設にはどのようなものがあるか調べる。		
8	終講試験		45分		
評価方法		筆記試験			
テキスト		専門分野Ⅱ 小児看護学 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 専門分野Ⅱ 小児看護学 小児臨床看護各論 医学書院			

専門分野Ⅱ：「小児看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名	
小児保健	1	30	2	1	教員 (実務経験:病院での小児看護)	
到達目標						
人間のライフサイクルにおける小児期をとらえ、小児を取り巻く社会状況や家族の重要性を理解することができる。						
時	授業内容		方法	備考		
1	1. 家族の特徴とアセスメント 1)子どもにとっての家族とは 2)家族アセスメント		講義	【事前学習】 ・自分にとっての家族について考えるをまとめる。		
2	2. 子どもと家族を取り巻く社会 1)医療費の支援 2)予防接種 3)学校保健 4)特別支援教育		講義 グループワーク	【事前学習】 ・母子手帳から自身の予防接種状況を確認する。 ・HP等を活用し、地域における母子保健事業、予防接種制度について調べる。 ・学校保健統計調査の結果から、我が国の子どもの健康問題について情報を収集する。		
3			グループワーク			
4			発表 講義			
5	3. 病気・障害をもつ子どもと家族の看護 1)病気・障害が子どもと家族に与える影響 2)健康問題をもつ子どもと家族の看護 3)生活制限のある子どもと家族の看護		講義 DVD レポート	45分		
6						
7						
8	4. こどもの状況(環境)に特徴づけられる看護 1)外来における子どもと家族の看護 2)入院中の子どもと家族の看護 (1)入院環境 (2)入院における子どもと家族への影響 (3)子どもと家族の看護 3)在宅療養を行う子どもと家族の看護		講義			
9						
10						
11	5. 症状を示す子どもの看護 1)機嫌・啼泣 2)痛み 3)呼吸困難 4)発熱 5)嘔吐・下痢・便秘 6)脱水・浮腫 7)出血 8)けいれん		講義 グループワーク 発表			
12						
13						
14	6. 障害のある子どもと家族の看護 1)障害のとらえ方 2)障害のある子どもと家族の特徴 3)障害のある子どもと家族の社会的支援		講義 DVD			45分
15						
16	終講試験			45分		
評価方法		筆記試験				
テキスト		専門分野Ⅱ 小児看護学 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 専門分野Ⅱ 小児看護学 小児臨床看護各論 医学書院				

専門分野Ⅱ：「小児看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
小児臨床看護	1	30	2	1.2	院内講師(医師) 院内講師(看護師)
到達目標					
健康を障害された小児とその家族に対する看護実践のための基礎的知識・技術を学び、対象への看護を理解することができる。					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 小児期に特徴的な疾患の病態・症状・診断・治療 ・子どものみかた、主な主要症状とその対処法	講義	担当講師：院内講師		
2	1)先天異常：ダウン症候群 2)新生児医療	講義	【事前学習】 ・小児看護学概論、小児保健の小児期の各発達段階における生理機能(体温・呼吸・循環・栄養・免疫など)の特徴と看護について学習をする。		
3	3)呼吸器疾患：肺炎、気管支炎 4)循環器疾患：ファロー四徴症、川崎病	講義			
4	5)消化器疾患：急性胃腸炎 6)血液・腫瘍疾患：白血病	講義			
5	7)腎・泌尿器疾患・生殖器疾患：ネフローゼ症候群 8)成長に関して	講義			
6	9)免疫・アレルギー疾患：気管支喘息 10)神経疾患：熱性けいれん	講義	【事前学習】		
7	11)感染症 12)予防接種	講義			
8	2. 子どもにおける疾患の経過と看護 1)周手術時にある子どもと家族の看護 (1)ファロー四徴症	講義	担当講師：院内講師		
9	2)急性期にある子どもと家族の看護 (1)肺炎 (2)けいれん (3)感染症	講義	【事前学習】 ・小児看護学概論、小児保健の成長曲線について学習をする。 ・小児保健の疾患や治療が小児や家族に与える影響について学習をする。		
10					
11					
12					
13	3)慢性期にある子どもと家族の看護 (1)Ⅰ型糖尿病 (2)ネフローゼ症候群	講義			
14	4)終末期にある子どもの看護 (1)白血病	講義			
15					
16	終講試験		45分		
評価方法		筆記試験			
テキスト		専門分野Ⅱ 小児看護学 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 専門分野Ⅱ 小児看護学 小児臨床看護各論 医学書院			

専門分野Ⅱ：「小児看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
小児看護学演習	1	30	2	2	院内講師(看護師) 院外講師 教員 (実務経験:病院での小児看護)
到達目標					
小児の健康な成長発達を促進するための養護について理解することができる。 小児看護学概論、小児保健、小児臨床看護で学んだ知識を統合し、健康レベルに応じた小児の援助方法を理解することができる。					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 子どものアセスメント 1)アセスメントに必要な技術 : 身体的アセスメント 2)子どもの養護	講義 グループ ワーク	担当:教員 【事前学習】 ・小児看護学概論、小児保健の成長曲線について学習をする。 ・小児看護学概論、小児保健の小児期各期における遊びの特徴について学習をする。		
2					
3	2. 検査・処置を受ける小児の看護 1)検査・処置総論 2)薬物動態と薬用量の決定 3)検査・処置各論 (1)与薬 (2)輸液管理、抑制 (3)検体採取(採血・採尿・骨髓穿刺・腰椎穿刺) (4)経管栄養、浣腸 (5)吸引・酸素療法・吸入 4)プレパレーション	講義			
4		グループ ワーク			
5		グループ ワーク 発表			
6	3. 看護技術 観察、身体測定、バイタルサイン測定	演習			
7	4. 健康障害を持つ子どもの看護過程の展開 気管支喘息の子ども(幼児期)と家族の看護 1)急性期発作時への対応 2)薬物療法時の看護 3)長期的管理における看護(指導・教育)	グループ ワーク 発表	【事前学習】 ・小児臨床看護での「呼吸器疾患」「急性期における子どもと家族の看護」について復習をする。		
8					
9					
10		講義	45分		
11	5. 低出生体重児の看護 (新生児集中治療室における看護) 1)低出生体重児の特徴 2)低出生体重児の看護の実際	講義	担当:院内講師 【事前学習】 ・NICU(新生児集中治療室)の役割と特徴について調べる。		
12					
13	6. 障害のある子どもの看護 1)重症心身障害児(者)の歴史 2)重症心身障害児(者)の特徴 3)重症心身障害児(者)看護の実際 (1)障害の程度に応じた日常生活援助の実際 (2)成長発達の促進、QOLの向上、 筋萎縮予防のための療育の実際	講義	担当:院外講師 ・重症心身障害児(者)病棟施設見学		
14		見学 レポート			
15					
16	終講試験		45分		
評価方法		筆記試験			
テキスト	専門分野Ⅱ 小児看護学 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 専門分野Ⅱ 小児看護学 小児臨床看護各論 医学書院				

専門分野Ⅱ：「母性看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
母性看護学概論	1	15	2	1	新宮 美紀
到達目標					
母性看護の基盤となる概念、母性看護の対象と役割を理解できる 女性のライフステージ各期における看護を理解できる					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 母性看護の基盤となる概念 1)母性とは		講義	【事前学習】 ・テキストを読み、講義に臨む。	
2	2)母子関係と家族発達 3)セクシュアリティ、 4)リプロダクティブヘルス・ライツ 5)ヘルスプロモーション		講義		
3	2. 母性看護のあり方と倫理 1)母性看護のあり方 2)母性看護における倫理		講義		
4	3. 母性看護の対象理解 1)女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 2)女性のライフサイクルと家族 3)母性の発達・成熟・継承		講義		
5	4. 女性のライフステージ各期における看護 ・思春期・成熟期・更年期・老年期女性の健康課題と看護		グループ ワーク	【事後学習】 ・女性のライフステージ各期における特徴と健康課題・看護について理解しまとめる。	
6					
7	5. リプロダクティブヘルスケア 1)家族計画、性感染症とその予防 2)人工妊娠中絶と看護、不妊治療と看護		講義		
8	終講試験			45分	
評価方法		筆記試験			
テキスト		専門分野Ⅱ 母性看護学 母性看護学概論 医学書院			

専門分野Ⅱ：「母性看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
母性保健	1	30	2	1	東野 直美 教員 (実務経験:病院での母性看護)
到達目標					
母性保健における統計・施策、母性を取り巻く社会制度について理解できる 妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象の生理的变化を学び、各期における看護を理解できる					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 母性看護の対象をとりまく社会の変遷と現状		講義	担当:教員 45分	
2	2. 母子保健統計		講義		
3	3. 母性看護に関する主な法律		演習		
4	4. 母子保健施策		演習		
5	5. 正常な妊娠の経過 1)妊娠期の定義 2)妊娠の成立 3)妊娠の経過と胎児の発育 4)母体の生理的变化		講義	担当:東野 直美 解剖生理学・母性概論 各論のテキスト持参	
6	5)母体の心理・社会的変化 6)妊婦・胎児の健康と生活のアセスメント 7)妊婦健康診査、産科的診断法		講義		
7	6. 妊娠経過と妊婦・胎児の健康生活のアセスメント ・妊娠経過と妊婦と家族への看護の関連		グループ ワーク	グループワーク準備物 ハサミ準備物:模造紙、ポ ストイット、油性ペン	
8			発表 演習 講義		
9	7. 妊婦と家族への看護 1)健康維持・セルフケアに関する保健指導 2)妊娠による不快症状とその看護、出産への準備教育		講義	分娩経過についてのWS 穴埋め課題	
10	8. 正常な分娩の経過 1)分娩期の定義 2)分娩の3要素 3)分娩の経過		講義		
11	9. 産婦・胎児の健康状態のアセスメント		講義	胎児と骨盤模型	
12	10. 産婦と家族への看護 1)産婦のニーズの充足 2)産痛緩和と分娩進行促進の看護		講義		
13	11. 正常な産褥の経過 1)産褥期の定義 2)産褥期の身体的特徴 3)産婦と家族の心理・社会的変化		講義	モニター波形モデル	
14	12. 産褥の健康と生活のアセスメント 1)退行性変化・進行性変化 2)セルフケア行動 3)産婦と家族の心理・社会的状態のアセスメント		講義		
15	13. 産褥と家族への看護 1)産褥復古に関する支援 2)母乳育児への支援、 3)日常生活とセルフケアへの支援 4)育児技術獲得への支援、家族の再調整		講義 演習	45分	
16	終講試験				
評価方法		筆記試験			
テキスト		専門分野Ⅱ 母性看護学 母性看護学概論 医学書院 専門分野Ⅱ 母性看護学 母性看護学各論 医学書院			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
母性臨床看護	1	30	2	1・2	院内講師(医師) 院内講師(助産師)
到達目標					
妊娠、分娩、産褥および新生児期の異常について理解できる 生理的変化から逸脱した対象や家族への看護について理解できる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. ハイリスク妊娠 2. 妊娠期の異常 1) 不育症・流産・早産 2) 妊娠期の感染症 3) 妊娠悪阻 4) 妊娠貧血	講義	担当: 院内講師(医師) 【事前学習】 ・テキストを読み、講義に臨む。		
2	5) 妊娠高血圧症候群 6) 妊娠糖尿病 7) 常位胎盤早期剥離前置胎盤	講義			
3	3. 分娩期の異常 1) 産道の異常 2) 娩出力の異常 3) 胎児・胎児付属物の異常 4) 胎児機能不全	講義			
4	5) 分娩時の損傷 6) 分娩時異常出血 7) 産科処置 8) 帝王切開術 9) 死産	講義			
5	4. 産褥期の異常 1) 帝王切開術後 2) 子宮復古不全 3) 産褥熱 4) 乳腺炎 5) 産後精神障害	講義			
6	5. 新生児の異常① 1) 先天性異常 2) 早産児 3) 低出生体重児 4) 新生児一過性多呼吸 5) 呼吸窮迫症候群	講義			
7	6) 胎便吸引症候群 7) 高ビリルビン血症 8) 新生児ビタミンK欠乏症 9) 低血糖症	講義			
8	6. 妊娠期の健康問題に対する妊婦と家族への看護 1) 不育症・流産・早産 2) 妊娠悪阻 3) 妊娠高血圧症候群 4) 前置胎盤	講義	担当: 院内講師(助産師) 【事前学習】 ・テキストを読み、講義に臨む。		
9	5) 双胎妊娠 6) 妊娠糖尿病 7) 常位胎盤早期剥離前置胎盤	講義			
10	8) 若年妊婦・高年妊婦への看護 7. 分娩期の健康問題に対する産婦と家族への看護 1) 前期破水 2) 分娩時異常出血 3) 陣痛異常	講義			
11	4) 胎児機能不全を生じるリスクのある産婦への看護 5) 帝王切開術を受ける産婦の看護	講義			
12	8. 産褥期の健康問題に対する産婦・家族への看護 1) 子宮復古不全 2) 産褥熱 3) 乳腺炎 4) 産褥精神障害 5) 尿路感染・排尿障害	講義			
13	6) 帝王切開術を受けた産婦の看護 9. 新生児の健康問題に対する新生児と家族への看護 1) 先天異常 2) 早産児、低出生体重児	講義			
14	3) 新生児一過性多呼吸 4) 呼吸窮迫症候群 5) 胎便吸引症候群 6) 高ビリルビン血症 7) 新生児ビタミンK欠乏症 8) 低血糖症	講義			
15	10. 健康上の問題がある児の親・家族への看護 1) 蘇生・処置を受ける児 2) 手術療法を受ける児 3) 死産 4) 障害児	講義 演習	【事後学習】 ・各疾患において、病態・検査・治療・処置・看護についてまとめる。		
16	終講試験	講義			
評価方法		筆記試験			
テキスト		専門分野Ⅱ 母性看護学 母性看護学各論 医学書院			

専門分野Ⅱ：「母性看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
母性看護学演習	1	30	2	2	教員 (実務経験: 病院での母性看護)
到達目標					
母性看護学概論、母性保健、母性臨床看護での学習を統合し、妊産褥婦と新生児およびその家族の看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を習得することができる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 母性看護に必要な看護技術 1)母性看護における看護過程 2)情報収集・アセスメント技術 3)母性看護に使われる看護技術 (1)健康教育 (2)保健指導	講義	【事前学習】 ・母性看護学概論で学習した母性看護の対象理解について学習する。 ・ウェルネス思考とはどのような考え方が調べる。 ・母性保健の正常な妊娠・分娩・産褥経過について学習する。 事例による看護の展開 事例を用いて、妊娠期、産褥期、新生児期の看護過程を展開する。ウェルネス志向にて対象の健康課題をとらえる。 45分 【事前学習】 新生児の看護技術について、手順や根拠を理解する。 【事後学習】 根拠を理解したうえで、技術練習に取り組む。		
2	2. 妊婦の看護過程 1)妊娠期の健康状態のアセスメント	講義			
3	2)妊婦の健康診査と看護 (1)産科的診断法 レオポルド触診法、児心音聴取、 ノンストレステスト、子宮底測定	講義 演習			
4	3)妊娠期の保健指導	講義 演習			
5	3. 分娩期の看護 1)分娩各期の経過と産婦のアセスメント 2)胎児の健康状態のアセスメント	講義 DVD			
6	3)産婦と家族への看護 (1)基本的ニーズへの援助 (2)産痛緩和と分娩進行促進の援助	講義			
7	4. 褥婦の看護過程 1)褥婦の健康状態のアセスメント	講義			
8	2)褥婦の心理・社会的変化のアセスメント	講義			
9	3)褥婦への看護 (1)身体機能の回復・退行性変化に対する援助 (2)進行性変化への援助	講義 グループワーク			
10	(3)母乳育児への支援 (4)育児技術獲得への支援	グループワーク			
11	5. 新生児の看護過程 1)新生児の健康状態のアセスメント	講義			
12	2)新生児への看護	講義			
13	6. 新生児の看護の実際 1)バイタルサイン測定 2)身体計測 3)抱き方・寝かせ方 4)オムツ交換 5)沐浴・臍処置 6)更衣	講義 演習			
14					
15	沐浴技術確認				
16	終講試験				
評価方法		筆記試験			
テキスト		専門分野Ⅱ 母性看護学 母性看護学各論 医学書院			

専門分野Ⅱ：「精神看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
精神看護学概論	1	15	1	2	教員 (実務経験:病院での看護)
到達目標					
精神看護の基本概念を学び、看護の対象・目的・機能を理解し、看護の役割が理解できる					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 精神看護の概念 1)「心のケア」と現代社会 精神科医療の現状 2)精神の健康とは 3)精神障害のとらえ方		講義	【事前学習】 ・心理学・人間関係論で学習した人間の心のはたらきについて復習する。 【事前学習】 ・ライフステージごとに心理的特徴と生じやすい問題についてまとめる。	
2	2.「人間の心の諸活動」		講義		
3	3.「心のしくみと人格の発達」		講義		
4	4. 関係のなかの人間 1)全体としての家族		講義		
5	2)人間と集団		講義		
6	5. リエゾン精神看護		講義		
7	6. 看護師のメンタルヘルス		講義		
8	終講試験				
評価方法		筆記試験			
テキスト		専門分野Ⅱ 精神看護学 専門分野Ⅱ 精神看護学	精神看護の基礎 精神看護の展開	医学書院 医学書院	

専門分野Ⅱ：「精神看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
精神保健	1	30	2	1	院内講師(医師) 院内講師
到達目標					
精神保健における施策について学び、精神の健康を取り巻く社会制度について理解できる 社会における心の健康とそれらに影響を与える要因を理解し、健全な精神発達への援助が理解できる					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 精神保健とは 1)精神保健の概念		講義	担当:院内講師 【事前学習】 ・法制度についてまとめる。 ・ディケア・外来・社会復帰施設・共同作業所・グループホームについて目的・役割をまとめる。	
2	2. 精神保健福祉の歴史		講義		
3					
4	3. 諸外国における精神保健福祉 (我が国、イタリアとの比較)		講義		
5	4. 精神障害と法制度 1)精神保健福祉法(入院形態) 2)障害者支援 3)社会資源(授産施設、就労支援他)		講義		
6	5. 精神保健福祉活動 1)社会資源(SHG、就労支援他)		講義		
7	6. 精神障害の一次予防、二次予防、三次予防		講義		
8	7. 地域移行支援・地域生活支援 1)長期入院者 地域移行支援		グループワーク		
9			発表		
10	8. 最近の精神医療の動向 正常と異常 1)京都の精神医療史		講義	担当:院内講師	
11	9. 貧困と精神保健福祉		講義	【事後学習】 ・精神障害をもつ対象の倫理について考える。	
12	10. 障害者虐待と精神保健福祉		講義		
13	11. 物質依存と精神保健福祉		講義		
14	12. ジェンダーと精神保健福祉 1)性同一性障害		講義		
15	13. 心的外傷後ストレス障害と精神保健福祉		講義		
16	終講試験			45分	
評価方法		筆記試験			
テキスト		専門分野Ⅱ 専門分野Ⅱ 別 巻	精神看護学 精神看護学 精神保健福祉	精神看護の基礎 精神看護の展開	医学書院 医学書院 医学書院

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
精神臨床看護	1	30	2	1.2	院内講師(医師) 院内講師(看護師)
到達目標					
精神疾患および精神障害について理解できる 精神障害をもつ対象と家族について理解できる 精神障害をもつ対象と家族への看護について理解できる					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 精神疾患と障害の理解 1)精神症状論と状態像		講義	担当:院内講師	
2	2. 精神障害の診断と分類① 1)統合失調症について		講義	【事前・事後学習】 ・症状についてまとめる。 (陰性症状・陽性症状:幻覚妄想・無為・精神遅延せん妄・自閉・混迷・拒絶意欲低下・興奮・強迫観念感覚鈍麻)	
3	3. 精神障害の診断と分類② 1)気分障害について		講義	・薬物療法の作用・副作用をまとめる。	
4	4. 精神障害の診断と分類③ 1)ストレス障害 摂食障害		講義		
5	5. 精神障害の診断と分類④ 1)認知症、器質的精神障害		講義		
6	6. 精神障害の診断と分類⑤ 1)発達障害 てんかん		講義		
7	7. 精神科での治療 1)薬物療法、電気けいれん療法、精神療法 等		講義		
8	8. 入院治療と看護① 1)治療と回復 2)回復を助ける 3)回復を支えるさまざまなプログラム (社会生活技能訓練)		講義	担当:院内講師	
9	9. 入院治療と看護② 1)入院の目的と意味 治療的環境		講義	【事前学習】 ・社会生活技能訓練、心理教育についてまとめる。	
10	10. 入院治療と看護③ 1)安全を守る		講義	45分	
11	11. 身体ケア① 1)精神科における身体のケア		講義		
12	12. 身体ケア② 1)身体合併症		講義	【事前学習】 ・各精神症状への関わりについてまとめる。	
13	13. 精神障害者が地域で暮らすむずかしさ 1)地域で生活するための原則、地域での看護の実際		講義		
14	14. 精神障害をもつ患者の看護 : 統合失調症		グループワーク	【事前学習】 ・統合失調症の看護についてまとめる。	
15	15. 精神障害をもつ患者の看護 : 気分障害、心身症		グループワーク		
16	終講試験			45分	
評価方法		筆記試験			
テキスト	専門分野Ⅱ 専門分野Ⅱ 別 巻	精神看護学 精神看護学 精神保健福祉	精神看護の基礎 精神看護の展開	医学書院 医学書院 医学書院	

専門分野Ⅱ：「精神看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
精神看護学演習	1	30	2	2	院内講師(看護師)
到達目標					
精神看護学概論、精神保健、精神臨床看護での学習を統合し、精神障害をもつ対象および家族の看護を考えることができる					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 精神看護における看護技術 1)ケアの前提 2)ケアの原則		講義	担当:院内講師 【事後学習】 ・プロセスレコードを記述し、アプローチの方法・関係性について振り返る。 【事後学習】 ・患者－看護師関係の理解については、ペプロウの看護理論についてまとめ学習する。	
2	3)ケアの方法(ペプロウの対人関係論含む)		講義		
3	4)関係をアセスメントする (1)プロセスレコードを用いたアセスメントの実際 (2)患者-看護師関係で起こること		講義		
4			講義		
5	5)患者-看護師関係成立の技術		講義		
6	6)関係をアセスメントする (1)プロセスレコード		グループワーク		
7					
8	7)チームのダイナミクス		講義		
9	2. 統合失調症患者の事例検討 1)陽性・陰性症状に対する看護 2)対人プロセスを通じた看護 3)服薬指導・環境調整 4)慢性期にある対象・家族への看護 5)幻覚・妄想のある対象の看護 6)引きこもり状態にある対象への看護 7)希死念慮のある対象へのかかわり 8)事例に対する患者-看護師関係		グループワーク	担当:院内講師 45分	
10					
11					
12					
13	3. 統合失調症患者の事例検討 発表		発表		
14	4. 家族への看護①		講義		
15	5. 家族への看護②		講義		
16	6. コミュニケーション演習		演習	【事前学習】 ・人間関係論・基本看護技術のコミュニケーション技術を復習する。	
17	終講試験			45分	
評価方法		筆記試験			
テキスト		専門分野Ⅱ 精神看護学 精神看護の基礎 専門分野Ⅱ 精神看護学 精神看護の展開 別 巻 精神保健福祉 自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード 医学書院 医学書院 医学書院 日総研			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
在宅看護概論	1	15	2	1	山本 めぐみ (実務経験:在宅での看護)
到達目標					
保健・医療・福祉における在宅看護の現状と課題について理解できる。 在宅看護の対象と役割、在宅看護活動について理解できる。					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 在宅看護の概念 1)在宅看護とは 2)在宅看護の場と対象のQOL	講義 DVD	DVD 「いのちと生活を看護する訪問看護サービス」		
2	2. 在宅看護における看護師の役割と機能 1)高齢化社会の進展と地域包括ケアシステム 2)医療ニーズに応じた継続的な医療の提供 3)在宅看護における看護師の倫理 3. 在宅看護の対象の理解 1)対象者の特徴 (1)年齢 (2)疾患 (3)障害	講義			
3	3. 在宅看護の対象の理解 2)家族	講義			
4	4. 在宅看護の変遷と社会背景 1)訪問看護制度の創設と発展 2)介護保険制度 3)訪問看護制度 4)在宅看護の課題と展望	講義			
5	5. 在宅看護におけるチームケアと多職種連携	講義 DVD			
6	6. 訪問看護の理念 7. 施設看護と在宅看護の違い	講義	DVD 「在宅療養とQOLの維持と向上のために」 【事前学習】 ・施設看護と在宅看護の相違点をまとめる。		
7	7. 施設看護と在宅看護の違い	グループワーク			
8	終講試験				
評価方法		筆記試験			
テキスト		統合分野 在宅看護論 医学書院			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
在宅看護方法論	1	30	2	1.2	太田 さとみ 大堂 千穂 滝川 良子 (実務経験:在宅での看護)
到達目標					
在宅看護の実際を知り、在宅で療養する対象とその家族に対し、特性をふまえた看護が理解できる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 在宅看護の実際 1)在宅看護の特徴	講義	担当:太田 さとみ 45分		
2	2. 地域包括ケアシステムとは	講義	【事前学習】 地域包括ケアシステムについて調べる。		
3	3. 在宅看護過程の展開のポイント	講義			
4	4. 在宅看護過程 1)在宅看護目標	講義			
5	2)在宅看護計画・実施・評価	講義	【事前学習】 暮らしを支える医療・介護・福祉職種とその役割について調べる。		
6	5. 地域における多職種連携 1)在宅における連携の特徴 2)医師との連携 3)地域の社会資源との連携 4)ネットワークづくり	講義			
7		講義			
8	6. 療養上のリスクマネジメント 1)在宅看護におけるリスクとは 2)環境整備による安全の確保 4)薬物による事故の防止 6)災害に対する準備と対応 3)身体損傷の防止 5)感染の防止	講義	【事後学習】 生活に潜む危険について考える。		
9	7. 在宅医療と社会保障制度 1)訪問看護の費用、診療報酬と介護報酬 2)訪問看護師の医療行為	講義	担当:大堂 千穂 【事前学習】 社会福祉Ⅰの介護保険制度について学習する。		
10					
11	8. 在宅で療養する対象への看護の実際 1)小児 2)難病 3)認知症 4)終末期(がん) 5)精神疾患	講義	担当:滝川 良子		
12					
13					
14	9. 在宅で療養する対象への看護の実際 1)体位変換 2)車椅子移乗	演習	【事前学習】 生活援助技術Ⅲの移動技術について学習する。		
15	10. 介護サービスについて	グループワーク			
16	終講試験				
評価方法			筆記試験		
テキスト			統合分野 在宅看護論 医学書院		

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
在宅看護技術	1	30	2	2	教員 院内講師
到達目標					
在宅で療養する対象への看護技術について理解ができる。 在宅で療養する対象および家族への生活および技術指導が理解できる。					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 在宅で求められる看護技術 1)アセスメント 2)コミュニケーション 3)活動の制限のアセスメントと生活行為 2. 療養環境を考慮した在宅看護技術 : 移動・移乗	講義	担当:教員		
2	3. 療養環境を考慮した在宅看護技術 : 呼吸 4. 医療処置を伴う在宅看護技術 1)NPPV 2)在宅酸素療法(HOT) 3)在宅人工呼吸療法(HMV)と吸引	講義	【事前学習】 病態学Ⅱの呼吸不全について学習する。		
3	5. 医療処置を伴う在宅看護技術 1)NPPV 2)在宅酸素療法(HOT)	演習	45分 【事前学習】 生活援助技術Ⅰ(食生活)の 摂食・嚥下のメカニズムについて学習する。		
4					
5	6. 療養環境を考慮した在宅看護技術 : 食生活・嚥下 7. 医療処置を伴う在宅看護技術 1)経管栄養 2)在宅中心静脈栄養(HPN)	講義	【事前学習】 臨床看護技術Ⅰ排泄障害の 排尿障害について学習する。		
6	8. 医療処置を伴う在宅看護技術 : 経管栄養	演習			
7	9. 療養環境を考慮した在宅看護技術 : 排泄 10. 医療処置を伴う在宅看護技術 : 膀胱留置カテーテル	講義			
8	11. 療養環境を考慮した在宅看護技術 : 身体の手入れ	講義			
9	12. 医療処置を伴う在宅看護技術 : 創傷処置 1)褥瘡の基礎知識 2)創傷処置とは 3)創傷処置を受けている対象の援助方法 ・創傷ドレッシング法の目的・種類 ・創傷処置:包帯法 創傷部位の観察	講義	担当:院内講師		
10	13. 褥瘡のアセスメントとケア、予防 1)スキンケア 2)おむつの選択・装着	講義	【事前学習】 老年保健の高齢者の皮膚の 特徴について学習する。		
11	14. 褥瘡のアセスメントとケア、予防 1)ポジショニング 2)体位変換 3)体圧分散・除圧	演習			
12	15. 人工肛門造設術後の生活指導 1)ストーマとは 2)装具について 3)生活の工夫	講義			
13	16. リハビリテーションの概念 1)障害の概念とリハビリテーションの意味 2)リハビリテーション医療におけるチームアプローチ 3)障害のある人をアセスメントするための基本的な 評価ツール 4)生活行動の再構築に向けた支援	講義	担当:院内講師		
14	17. 在宅リハビリテーション 18. 呼吸器疾患患者のアセスメントと呼吸理学療法 1)スクイーミング 2)排痰法	講義 演習	【事前学習】 病態学Ⅱの呼吸不全について学習する。		
15					
16	終講試験		45分		
評価方法		筆記試験			
テキスト	統合分野 在宅看護論 医学書院 別巻 リハビリテーション看護 メディカルフレンド社 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 基礎分野Ⅱ 成人看護学 消化器 医学書院 基礎分野Ⅱ 成人看護学 呼吸器 医学書院				

統合分野:「在宅看護論」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
在宅看護論演習	1	30	2	2	山本 めぐみ (実務経験:在宅での看護) 教員
到達目標					
在宅で療養する対象と家族の特性をふまえた看護を考えることができる。					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 訪問時のマナー 2. 在宅看護介入時期別の特徴 1)在宅療養準備期(退院前) 2)在宅療養移行期 3)在宅療養安定期 4)急性増悪期 5)終末期(看取り期)	講義	担当:教員		
2	3. 在宅で療養する慢性疾患のある対象への援助 ・脳卒中後遺症の対象(在宅療養導入期)	グループワーク	【事前学習】 成人臨床看護Ⅲ脳梗塞患者の看護について学習する。 45分		
3		発表			
4	4. 在宅で療養する慢性疾患のある対象への援助 ・脳卒中後遺症の対象 (誤嚥性肺炎を生じた超高齢者(急性期))	グループワーク			
5		発表			
6	5. 在宅で療養する慢性疾患のある対象への援助 ・脳卒中後遺症の対象(高次脳機能障害のある療養者)	グループワーク			
7		発表			
8	6. 在宅療養継続のための家族支援	講義 DVD			
9	7. 在宅で療養する難病の対象への看護 8. 在宅で療養するがん末期の対象への看護	講義	担当:山本 めぐみ		
10	9. 在宅で療養する医療処置を必要とする対象への援助 筋萎縮性側索硬化症(ALS)で人工呼吸療法を実施する対象 (在宅での生活に不安を抱きつつ退院するALS療養者)	グループワーク	【事前学習】 老年臨床看護の筋萎縮性側索硬化症の病態・治療について学習する。		
11		発表			
12					
13	10. 在宅で療養する終末期(がん)の対象への援助 (最期まで自宅で過ごしたい終末期のがん療養者)	グループワーク	【事前学習】 成人臨床看護Ⅴの終末期がん患者の看護について学習する。		
14					
15	11. 在宅で療養する医療処置を必要とする対象への援助と 在宅で療養する終末期(がん)の対象への援助のまとめ	講義 DVD	DVD 「家で親を看取るその時あなたは」		
16	終講試験		45分		
評価方法		筆記試験			
テキスト		統合分野 在宅看護論 医学書院			

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
看護管理	1	15	3	1.2	看護部長
到達目標					
看護活動を円滑に行うための看護マネジメントについて理解できる。 マネジメントに必要な知識・技術について理解できる。					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 看護とマネジメント	講義	【事前学習】 ・チーム医療を支える職種とその役割について調べる。 【事前学習】 ・看護ケア提供システムについて調べる。 ・看護学概論の看護体制について学習する。		
2	2. 看護ケアのマネジメント 1) チーム医療とは (1) チーム医療の必要性 (2) 組織目的達成のマネジメント 2) チーム医療の中での職種間の連携・調整 (1) 医師との協働 (2) 多職種との協働 (3) チームにおける看護師の役割と責任 (4) チームカンファレンス	講義			
3	3. 看護職のキャリアマネジメント 1) 看護職の健康管理 2) キャリア開発	講義			
4	4. 看護サービスのマネジメント 1) 看護単位と看護ケア提供システム (1) チームナースィング (2) プライマリナースィング (3) 機能別看護方式 (4) モジュール・ナースィング 2) 看護チームでの情報伝達・共有 (1) 情報伝達・共有の方法 (2) ミーティング (3) 交替制勤務と情報伝達	講義			
5	5. マネジメントに必要な知識と技術 1) リーダーシップとマネジメント : 倫理的問題	グループワーク			
6	5. マネジメントに必要な知識と技術 2) リーダーシップとマネジメント (1) 特性理論、行動理論、条件適合理論	講義			
7	6. 看護ケア提供システム看護管理のまとめ	講義			
8	終講試験				
評価方法		筆記試験			
テキスト	統合分野 看護の統合と実践 看護管理 医学書院 専門分野 I 基礎看護学 看護学概論 医学書院				

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名			
災害看護と国際協力	1	15	2	1.2	教員			
到達目標								
災害の基本的知識と災害時の看護師の役割について理解する。 我が国における災害対策、災害救助活動を理解し、国際協力の必要性を考えることができる。								
時	授業内容	方法	備考					
1	1. 諸外国への国際協力 1)国際協力とは 2)世界の健康問題の現状 3)国際協力のしくみ (1)国際機関 (2)政府機関 (3)非政府機関 4)国際救援と看護	講義	【事前学習】 ・近年行われている国際救 護活動について調べる。					
2	2. 国際救援活動の実際 : 地球のステージ鑑賞	鑑賞						
3	3. 災害医療の基礎知識 1)災害とは 2)災害医療の特徴 3)災害に対する社会的対応システム (1)CSCATTT (2)トリアージ (3)DMAT 4)災害が人々の健康生活に及ぼす影響 4. 災害看護の基礎知識 1)災害看護の定義 2)災害看護の役割 3)災害看護の対象	講義	【事前学習】 ・DMATの活動について調 べる。					
4	5. 災害時の看護活動 1)災害時の支援、優先度の高い人のニーズとそのケア 2)初動期の医療看護活動 3)被災病院での医療看護活動 4)災害後の慢性期的な健康問題とその対応	講義						
5	6. 被災者と救援者の心理とこころのケア 7. 災害準備期の活動 1)災害への備え 2)災害と看護ネットワーク	講義				【事後学習】 ・事例をもとにこころのケア について考える。 【事前学習】 ・地域における消防署の役 割について調べる。		
6	8. 地域における災害の特徴、災害対策の実際 消防署見学	見学						
7	9. 災害時の医療看護活動の実際	演習						
8	終講試験		45分					
評価方法		筆記試験およびレポート						
テキスト	統合分野 看護の統合と実践 災害看護学・国際看護学 医学書院 専門分野 I 基礎看護学 看護学概論 医学書院							

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
医療安全	1	30	3	1.2	教員 (実務経験:病院での看護) 院内講師
到達目標					
安全な医療を提供するためのシステムが理解できる。 対象の安全を阻害する危険因子を判断し、事故を予防するための回避行動、安全を保証する確かな知識・技術が習得できる。					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 医療安全の概念 1)医療安全とは 2)医療安全の動向、取り組み 3)ヒューマンエラー 2. 医療安全対策の国内外の潮流 1)国・組織としての安全対策	講義	担当:院内講師		
2	3. 医療事故の構造 4. 医療事故防止の考え方 5. 看護業務にかかる看護師の法的責任・倫理	講義	【事前学習】 ・近年発生している医療事故について調べる。 ・看護師の法的責任について調べる。		
3	6. 医療におけるリスクマネジメント 1)リスクマネジメントの基本と方針	講義			
4	7. 臨床で起こっている事故の実際と対策、事例 1)診療の補助の事故 2)療養上の世話の事故	講義			
5					
6	8. 医療のリスクマネジメントのプロセスとその実践 1)リスクマネジメントのプロセス 2)リスクの分析(RCA分析) 3)リスクへの対応	講義			
7	9. 医療のリスクマネジメントのプロセスとその実践 1)RCA分析	グループワーク			
8	1)RCA分析	発表			
9	10. 看護学生の実習と安全 1)実習中に起こりやすいインシデント 2)実習中の事故発生時の対応 3)実習における事故の法的責任	講義 グループワーク	担当:教員		
10	11. 看護技術のリスクと安全	グループワーク	【事前学習】 ・近年発生している医療事故について調べる。 ・看護師の法的責任について調べる。		
11	12. 起こりやすい医療事故とその対応 1)コミュニケーション	講義 グループワーク			
12	13. 起こりやすい医療事故とその対応 1)診療の補助技術	講義 グループワーク			
13	14. 起こりやすい医療事故とその対応 1)療養上の世話	講義 グループワーク			
14	15. 危険予知トレーニング(KYT)	講義 グループワーク			
15	16. 危険予知トレーニング(KYT)	グループワーク			
16	終講試験				
評価方法			筆記試験		
テキスト	統合分野 看護の統合と実践2 医療安全 医学書院 医療安全ワークブック 医学書院 統合分野 看護の統合と実践 看護管理 医学書院				

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
臨床看護の実践	1	30	3	1.2	教員 (実務経験:病院での看護)
到達目標					
実践に求められる情報収集能力、状況判断能力、対象の意思を尊重する姿勢、多重課題への対応を考え状況に応じた援助ができる。					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 対象の状況判断および援助の選択と実施 1)点滴静脈内注射を実施している患者の 点滴漏れの判断と対応 (1)輸液ポンプ、シリンジポンプの構造と機能 (2)基本的な操作方法と取り扱い (3)使用時の注意点・事故防止	講義 演習	担当:教員 【事前学習】 ・輸液ポンプ、シリンジポンプのしくみと基本的取り扱いについて調べる。 ・事例の状態をアセスメントし、必要な援助を判断する。 ・基本看護技術を練習し演習に臨む。		
2	(4)点滴漏れの観察と判断の視点、対応 (5)事例検討 安全に輸液療法を実施するための事故防止	講義 演習			
3	2. 対象の状況判断および援助の選択と実施 2)腹部膨満感を訴える患者の症状の判断と援助 (1)事例から学ぶ臨床判断の考え方 ・腹部膨満の分類・原因・誘因 ・メカニズムと特徴・検査データの読み取り ・アセスメントと診断 (2)アセスメントに基づく援助の選択の考え方	講義 グループ ワーク			
4					
5					
6					
7	3. 緊急度、重症度から判断する優先順位の考え方	講義	担当:教員 45分 ・臨床現場に近い形での演習を行う。		
8	4. 多重課題への対応:複数患者への看護実践 1)優先順位を判断するには (1)優先順位を考えるための情報収集 (2)アセスメント (3)複数患者に必要な観察・援助 2)多重課題への対応 (1)優先順位を考慮したスケジュールの立案 (2)複数患者の看護実践 3)実践後の振り返り	講義 演習			
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16	終講試験		45分		
評価方法		筆記試験			
テキスト		統合分野 看護の統合と実践 医療安全 医学書院 統合分野 看護の統合と実践 看護管理 医学書院 看護過程に沿った対症看護 学研			

